

# 第8回 尾瀬国立公園協議会 次第

日時 平成23年9月16日(金) 13:00～15:00

場所 ホテルブリランテ武蔵野 エメラルド

## 1 開会

## 2 議事

(1) 環境省による「尾瀬の多様な魅力を楽しむための自動車利用のあり方検討調査」の詳細について

(2) 群馬県による「尾瀬らしい自動車利用社会実験」について

(3) その他

## 3 閉会

### 【配付資料】

- ・資料1 尾瀬国立公園「尾瀬らしい自動車利用」と「目指すべき利用の姿」の実現のために
- ・資料2 個別実施計画と進捗状況 H23.9.16 群馬県

### (参考)

- ・平成23年度 尾瀬国立公園 公園の多様な魅力を楽しむための自動車利用のあり方検討調査「尾瀬らしい自動車利用社会実験」と連動した入山者流動実態及び意識調査 調査計画
- ・尾瀬の多様な魅力を楽しむ利用への誘導ー自動車利用の検討などによるー

## 第8回尾瀬国立公園協議会委員名簿

	氏名	所属	出欠	随 行
1	荒竹 宏之	福島県生活環境部長	代理:自然保護課長 水野 良彦	
2	池田 賢治	南会津町観光協会館岩支部長	×	
3	石崎 均	栃木県環境森林部長	×	
4	石澤 尚史	関東森林管理局計画部長	×	
5	遠藤 孝一	日本野鳥の会栃木県支部 副支部長	○	
6	大平 悦子	魚沼市長	代理:観光振興室 主任 佐藤 三栄子	
7	大宅 宗吉	南会津町長	代理:館岩総合支所振興課 係長 星 良栄	
8	影山 嘉宏	東京電力株式会社環境部長	代理:環境部尾瀬緑化グループマネジャー 小島 実	桑原 泰穂
9	櫻村 利道	福島大学名誉教授	○	
10	加瀬 由紀子	新潟県自然観察指導員の会顧問	×	
11	加藤 峰夫	横浜国立大学大学院教授	○	
12	桑原 幸子	魚沼市観光協会事務局長	○	
13	斉藤 江美	三井物産(株)CSR推進部社有林・環境基金室	×	
14	斎藤 晋	群馬県立女子大学名誉教授	○	
15	斎藤 文夫	日光市長	×	
16	塩田 政一	片品山岳ガイド協会事務局長	○	
17	関根 進	尾瀬山小屋組合組合長	○	
18	千明 金造	片品村長	×	
19	中村 稚枝子	新潟県県民生活・環境部長	代理:環境企画課長 田海 直樹	
20	平野 進一	尾瀬檜枝岐温泉観光協会理事	○	
21	星 一彰	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会	○	
22	星 菊芳	尾瀬山小屋組合 副組合長	×	
23	星 光祥	檜枝岐村長	代理:企画観光課長 橘 千春	
24	宮崎 晴郎	片品村観光協会事務局長	×	
25	宮田 剛	尾瀬林業株式会社代表取締役	○	尾瀬戸倉支社長 清水 秀一
26	森谷 賢	環境省関東地方環境事務所長	○	
27	山口 栄一	群馬県環境森林部長	代理:尾瀬保全推進室企画推進係長 石井年香	宝珠山 恭子
28	油井 正昭	財団法人国立公園協会 理事長	×	
29	湯沢 長久	湯西川・川俣・奥鬼怒温泉観光協会事務局長	×	
30	横山 隆一	財団法人日本自然保護協会常勤理事	代理:保護プロジェクト外部 辻村 千尋	

※50音順 敬称略

### 事務局

1	関東地方環境事務所	統括自然保護企画官	大坪 三好
2	〃	国立公園・保全整備課長	中野 圭一
3	〃	国立公園・保全整備課 自然保護官	齋藤 純一
4	〃	檜枝岐自然保護官事務所 首席自然保護官	仁田 晃司
5	〃	片品自然保護官事務所 自然保護官	末續 野百合
6	尾瀬保護財団	企画課長	遠藤 康明
7	〃	副主幹	友松 浩二
8	〃	主任	安類 智仁

## 第8回 尾瀨国立公園協議会 座席表

		中村 委員 (田海代理)	関根 委員		樫村 委員長		塩田 委員	齊藤 委員		
平野 委員										桑原 委員
星(一) 委員										加藤 委員
星 委員 (橘代理)										影山 委員 (小島代理)
宮田 委員										大宅 委員 (星代理)
森谷 委員										大平 委員 (佐藤代理)
山口 委員 (石井代理)										遠藤 委員
横山 委員 (辻村代理)										荒竹 委員 (水野代理)

事務局			事務局			事務局		
関東事務所 齋藤	片品保護官 末續	檜枝岐保護官 仁田	関東事務所 中野	関東事務所 大坪		尾瀨財団 遠藤	尾瀨財団 友松	尾瀨財団 安類

(傍聴席)

(随員)

						尾瀨林業(株) 清水	東京電力(株) 桑原	群馬県 宝珠山
--	--	--	--	--	--	---------------	---------------	------------

出入口

## 尾瀬国立公園

「尾瀬らしい自動車利用」と「目指すべき利用の姿」  
の実現のために

平成23年7月

関東地方環境事務所

群馬県

はじめに	
1 自然景観・自然環境の保全と適正利用の考え方	1
2 尾瀬において厳正に保全すべき対象	1
3 利用のゾーニングと適正利用	1
4 尾瀬における利用の特徴	2
第1章 尾瀬において目指すべき利用の姿	2
第2章 目指すべき利用の姿のために検討すべき事項	
1 尾瀬への観光アクセス交通	3
2 尾瀬の観光交通の特性	3
3 尾瀬の利用動向	4
4 尾瀬らしい自動車利用	4
第3章 尾瀬らしい自動車利用と目指すべき利用の姿の実現のために	
1 歩道の概要	4
2 観光アクセス交通変更の過去の例	5
第4章 尾瀬の多様な魅力を楽しむ利用ための方策	
1 尾瀬らしい自動車利用と交通アクセスの変更により将来的に期待できること	5
2 尾瀬らしい自動車利用と交通アクセスの変更に関する調査	6
3 調査の内容	6
第5章 群馬県 尾瀬らしい自動車利用社会実験	
1 基本的な考え方	13
2 事業展開の方針	13
3 調査の手法等	14
4 全体計画	15
第6章 実施にあたり配慮すべき事項	
1 自然環境の保全	16
2 情報の公開	16
—資料—	17



I 登山エリア	・山岳地であり登山に利用されているエリア。 ・中級以上の登山者	特別保護地区 第1種特別地域
II 軽登山エリア	・自然観賞及びスポーツとしての登山に利用されているエリア。 ・初級者を含む登山者	特別保護地区 第1種特別地域
III 山岳探勝 エリア	・幅広い利用者層に自然探勝を目的とした利用がされているエリア。	特別保護地区 第1種特別地域
IV 入山エリア	・本公園の入山口として利用されているエリア。 ・車道の利用もある。	第2種特別地域 第3種特別地域

登山エリア、軽登山エリア、山岳探勝エリアは特別保護地区と第1種特別地域にふくまれることから、適切なルールのもとに利用が行わなければならない。

#### 4 尾瀬における利用の特徴

尾瀬の入山者数は、平成8年と平成9年の年間利用者約60万人をピークに減少し、近年は約30万人で推移している。

限界収容力(7,000人以上/日)を越える利用集中日は減っているが、尾瀬利用者の約8割が入山口と下山口が同じの往復利用であり、利用者の5割が鳩待峠からの往復と、選択されるルートに偏りが見られる。

### 第1章 尾瀬において目指すべき利用の姿

登山エリア、軽登山エリア、山岳探勝エリアは、原生的な自然を有しており、単なる風景鑑賞にとどまらず、すぐれた自然を五感で感じる事が重要である。

#### ○目指すべき利用の姿

尾瀬ヶ原、尾瀬沼、各入山口など、尾瀬のもつ様々な魅力をゆっくり楽しむ。

イメージとしては・・・

季節を通じて、夜明け、夕暮れ、夜空を楽しんでもらう。

日帰りではなく宿泊し、多様な自然を楽しむ滞在型・回遊型利用。

目指すべき利用の姿の実現のためには、利用が偏重している鳩待峠口と尾瀬ヶ原の往復ルート以外を選択しやすくすることが重要である。

## 第2章 目指すべき利用の姿のために検討すべき事項

### 1 尾瀬への観光アクセス交通

利用者のほとんどは、尾瀬のみを対象地域とした単一目的で来訪している。

尾瀬のみを楽しむための移動が主であり、自宅と尾瀬の往復型観光アクセス交通が主で、周遊交通は少ない。

一般的に観光アクセス交通では、速く、安く、快適にといった基本的な交通サービス要素が重視されるが、尾瀬は山岳地であることから早朝がさらに加わる。

(観光交通とは)

観光交通とは、観光旅行や各種レジャー・レクリエーションなど、人々の観光活動に伴って生ずる非日常的な交通である。通勤や業務交通を主体とした日常交通では、規則的で安定した交通特性を示すのに対して、観光交通は観光の多様な活動内容や行動パターンを反映した特有の交通現象となって顕在化する。

(観光アクセス交通)

観光は非日常的な体験のために頻度の低い活動であり、観光を目的とした移動は一般に日常圏を越えて広い範囲に及ぶ、観光活動に伴って生じる一連の移動、すなわち自宅などから出発し、観光地で観光活動を行い、帰宅するまでの間の交通を考えると、一般にこれらは観光アクセス交通と、対象地域における周遊交通に分けて考えることができる。

観光アクセス交通とは、出発地～観光の対象地間の往復の交通であり、これは主として高速道路などの幹線道路や、幹線鉄道等が担っている。

一般的に観光アクセス交通では、速く、安く、快適にといった基本的な交通サービス要素が重視される。

魅力ある観光地と交通 (財) 国際交通安全学会

### 2 尾瀬の観光交通の特性

#### ○季節変動等特性

ミズバショウシーズン	5月下旬から6月中旬	に増加
ニッコウキスゲシーズン	7月上旬から7月下旬	に増加
夏休み	8月上旬から8月下旬	に増加
紅葉	9月下旬から10月上旬	に増加

#### ○日変動特性

週末に増加する。さらに季節変動とも相まった週末は更に増加する。

#### ○時間変動特性

土曜日の早朝に尾瀬に向かう観光アクセス交通が増加する。

日曜日の午後に、尾瀬から出る方向の観光アクセス交通が増加する。

### 3 尾瀬の利用動向

入山口の選択理由（調査日 H21.7.18~20 及び 10.11）

鳩待峠下山者が鳩待峠を入山口に選択した理由は

「尾瀬ヶ原に行きたかった」 46.6%

「鳩待峠までの交通の便が良いから」 37.0%

「鳩待峠から尾瀬ヶ原までのアクセスが良いから」 25.2%

平成 21 年度尾瀬国立公園利用適正化推進事業報告書

(財)尾瀬保護財団

となっている。利用者全体の 5 割は尾瀬ヶ原が尾瀬来訪の目的となっているが、交通アクセスの利便性の理由も高い割合を占めている。

### 4 尾瀬らしい自動車利用

尾瀬らしい自動車利用のあり方として、次の方策が提案されている。

- ・ 戸倉を交通の拠点として、主要入山口への通年マイカー規制を段階的に導入、バス運行の充実を図る。
- ・ 鳩待峠の主要入山口としての雰囲気作り
- ・ シャトルバスを低公害車両に段階的に更新
- ・ 大清水周辺の登山道の魅力アップを図る

## 第 3 章 尾瀬らしい自動車利用と目指すべき利用の姿の実現のために

目指すべき利用の姿を実現させるためには「尾瀬らしい自動車利用のあり方」を実施するとともに、観光アクセス交通、特に「速く」を考慮する必要がある。

そのために、大清水口の大清水～一ノ瀬の間の活用が考えられ、同区間を車利用とした場合、距離、標高差、時間の短縮ができる。

### 1 歩道の概要

- ・ 鳩待峠口

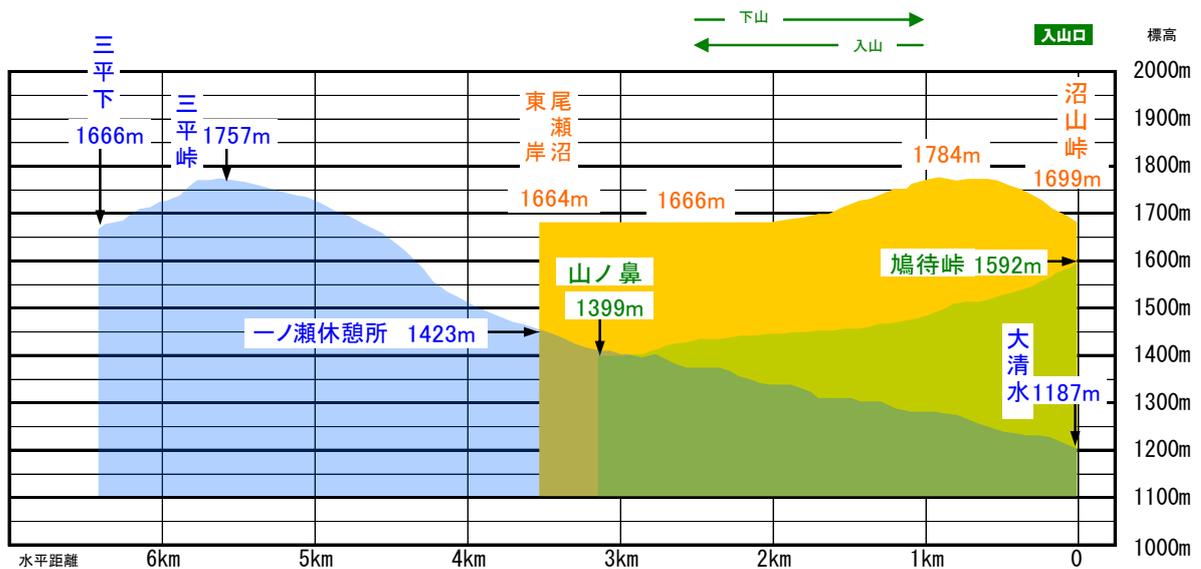
距離 3.3km 標高差 193m 所要時間 1 時間

- ・ 大清水口（大清水～三平下）

距離 6.4km 標高差 570m 所要時間 2 時間 30 分

- ・ 大清水口（一ノ瀬～三平下）

距離 4.4km 標高差 334m 所要時間 1 時間 30 分



## 2 尾瀬で観光アクセス交通の変更によりルートや入山口が変更となった過去の例

### ・福島県

～昭和45年 尾瀬沼への主要歩道アクセス 七入～沼山峠

御池～沼山峠間開通 により利用者激減

### ・群馬県

～昭和36年 尾瀬ヶ原への主要歩道アクセス 富士見下～富士見峠

戸倉～鳩待峠間のバス運行により、入山口が富士見下から鳩待峠へ

## 第4章 尾瀬の多様な魅力を楽しむ利用ための方策

### 1 尾瀬らしい自動車利用と交通アクセスの変更により将来的に期待できること

- ・戸倉を拠点とした交通体系の構築：マイカー利用者が鳩待峠を利用する際には、戸倉が拠点となるため、他の入山口から戸倉までのアクセスを容易にすることで、回遊型の利用増加が期待できる。（尾瀬への起点と終点が同一地点）
- ・鳩待峠の利用のあり方：国立公園の入口としてふさわしい整備と運用を行うとともに、回遊型の利用への誘導が期待できる。
- ・大清水～一ノ瀬間の車両の運行：大清水～一ノ瀬間の時間短縮により、入下山口としての大清水口を利用しやすくなり、回遊型の利用増加が期待できる。
- ・低利用入下山口周辺の滞在時間延長等：低利用入下山口周辺の資源を発掘し、利用を促進する。

なお、尾瀬らしい自動車利用の観点からシャトルバスを低公害車両に段階的に更新することも検討する。

## 2 尾瀬らしい自動車利用と交通アクセスの変更に関する調査

### (1) 調査目的

尾瀬らしい自動車利用と目指すべき利用の姿の実現のための、交通体系とアプローチを確立することとし、そのための手法・検討・調査を目的とする。

～尾瀬をゆっくり楽しむための交通体系とアプローチの確立～

### (2) 調査目標

- 1 自動車によるアクセスを変えることで、これまでと異なるルート設定を可能にする。
- 2 低利用入下山口周辺の滞在時間を延長し、利用を促進する。
- 3 主要な入山口である鳩待峠の利用のあり方を検討する。
- 4 目指すべき利用への誘導に向けて情報発信をしていく。

### (3) 調査の方針

尾瀬への交通アクセスや、入下山ルートを交通計画の「トリップ」とし、交通量の予測や交通計画の手法を用い、入山者のトリップ選択構造（交通計画メカニズム）を解明する。

交通アクセスの変更は次とする。

○戸倉の交通拠点化及び鳩待峠の雰囲気づくりに伴う交通アクセスの変更

(鳩待第1駐車場を車両進入のない状態にする乗り入れ制限)

○大清水～一ノ瀬の電気バスの運行（旧道の通行を含む）

## 3 調査の内容

### (1) 予測のための必要な情報と調査方法

利用者の動向変化や、回遊型利用への誘導の発生量を科学的・客観的に予測していくために次の情報を収集する。

項目	把握すべき情報	そのために必要な調査・収集すべきデータ等	調査方法
尾瀬のトリップ（交通アクセス及び登山ルート）の実態	入山地（戸倉や檜枝岐等）～入山口～登山ルート～下山口～下山地（前と同じ）をトリップと見立てた時に、トリップの種類別・交通機関別の比率	特定の調査日において以下のデータを収集する。 ○入山時・下山時アクセス交通量 ○入山口別(時間別)入山者数、下山者数 ○主要登山ルートの通行者数	○交通量(登山者数)計測調査 ○入山者アンケート調査 ○関係機関からのデータ

入山者のトリップの選択構造	上記のトリップ（登山ルート等）を選択する時の要因と、それがどのように選択に影響したか ○交通アクセス(交通機関、距離、時間、料金、頻度、混雑度等) ○目的 ○登山ルートの魅力 ○登山ルートの難易度・所要時間 ○選択の基となった情報媒体	○入山者が実際のトリップを選択した理由（左記に示したどのような要因を考慮したか）、それが入山目的や個人属性等とどのような関係にあるか ○あるいは、逆に他のトリップを選択しなかった理由は何か(左記に示した要因のうち、どのようなものが障害となったか)	○入山者アンケート調査 ○関係者ヒアリング調査で補完
交通アクセス(変更)に対する入山者の評価	現状の交通規制、および今後、検討し得る交通アクセスの変更(大清水～一ノ瀬の電気バス運行等)に対しての入山者の評価	○交通規制やアクセス変更に関して肯定的か、否定的か ○大清水～一ノ瀬の電気バスへの乗車希望(再乗車希望)。ただし単純に乗車したいか否かといった評価だけで分析しない	○入山者アンケート調査

## (2) 調査の実施時期

交通体系とアプローチの確立のための調査は、尾瀬の利用最盛期を対象に実施する必要がある。

- ・対象時期      5月～10月      開山期
- ・実施時期      6月              ミズバショウ
- 7月              ニッコウキスゲ
- 8月              夏休み
- 10月             紅葉

## ○交通量（登山者数）計測調査・入山者アンケート調査の具体的方法

尾瀬のトリップの実態、及び入山者のトリップの選択構造把握をねらいとした交通量（登山者数）計測調査、入山者アンケート調査は、同日に行う必要があり、次のようなねらいから2回とする。

回	調査日	調査のねらい	交通量計測調査	アンケート調査	備考
第1回	9/23(金) ～	通常時における入山者のトリップの実態を交通量計測調査等で把握。また現状のトリップの選択	実施	実施 回収数	

	9/25(日) の2日間	構造等を、 <b>入山者アンケート調査</b> で把握。 第2回を実施する前のプレサーベイとも位置づけ、調査方法についても検証		約800	
--	-----------------	--	--	------	--

第1回調査の進み具合を検証して、交通量計測調査及び入山者アンケート調査の方法を改良する。



第2回	10/8(土) 10/9(日)	群馬県による「 <b>自動車利用社会実験(大清水～一の瀬の電動バス運行等)</b> 」実施時における、入山者のトリップの実態の変化を <b>交通量計測調査等</b> で把握。社会実験が入山者のトリップ選択に与えた影響や、交通アクセスの変化に対する評価を <b>入山者アンケート調査</b> で把握	実施	実施 回収数 約1,000	群馬県が社会実験実施に合わせて行うアンケート調査と連携を取り、効率的・効果的な調査を実施
-----	--------------------	--	----	---------------------	--

#### ○ 交通量（登山者数）計測調査の方法

- ・各入山口の入山者数については、環境省登山者カウンターのデータを活用する。
- ・主要入山口（鳩待峠、大清水、富士見峠、沼山峠、御池）、および主要登山ルートに調査員を配置し、時間帯別・方向別の登山者数を計測する。

#### ○ 入山者アンケート調査の方法・調査内容

- ・5つの主要入山口において、下山者を対象として、以下のようなアンケート調査を実施する。
- ・アンケート調査票の配付・回収方法は、調査票（画板付）を下山者に手渡し、その場で記入・回収する方法を基本とする（一部の調査対象者については、詳しくヒアリングしたり、後日郵送により返送してもらう方法を併用する）
- ・有効回答票数として、過年度調査等を参考に、概ね1,000程度を取得することとし、昨年度調査で分析した入山口別の入山者数・下山者数に応じて、各入山口に配分する。
- ・アンケート調査票の主要な設問項目

トリップ・行程の詳細〔入山地～入山口～登山ルート～下山口～下山地、宿泊場所、日程（時間）〕

全入山口に関する入山コース、下山コースとしての評価〔認知度や経験の有無、魅力度、難易度等〕（これにあわせて、入山口、下山口として選択した理由、選択しなかった理由  
尾瀬のトリップを選択するための情報媒体（ガイドブック、インターネット……）  
尾瀬への来訪動機となった情報媒体（マスコミ、山岳・旅行雑誌、口コミ、旅行会社……）

尾瀬の交通規制、交通アクセスに対する評価（大清水～一ノ瀬の電気バスへの評価等）  
（バスの発着地や頻度等に関する評価と、それによって選択し得るトリップの意向）

入山目的

登山経験、尾瀬の来訪経験、居住地、性別・年齢、来訪グループ構成等

○交通量（登山者数）計測調査・入山者アンケート調査の分析方法

「大清水～一ノ瀬までの車両運行」と「回遊型利用への誘導」は極めて重要であり客観的・科学的な分析を行う。

2回の調査の比較分析

- ・自動車利用社会実験の有無による入山者のトリップの実態の差異や、入山者のトリップの選択構造の変化などを比較分析

入山者のトリップの選択構造と採用したトリップとの相関分析

- ・入山者アンケート調査に基づき、各入山口の交通アクセスの快適性・利便性に対する評価、登山ルートとしての魅力や難易性に対するイメージを的確に分析。それとトリップの実態との相関関係を定量的に分析
- ・交通アクセスの変更が、トリップ選択に及ぼす効果や影響については、入山者アンケート調査で一定の分析ができるように、設問項目を設定
- ・回遊型利用（入下山口を異にする利用）を誘導するための方向性については、情報提供のあり方や、宿泊・滞在の魅力の向上等、交通アクセスの変更以外の要素も大きく、あわせて検討する。

○交通計画で汎用される数理モデル〔非集計モデル〕を用いた交通政策評価

- ・入山者個人の入山目的や各入下山口に対する魅力イメージ、距離等の抵抗、体力といった諸特性とトリップの実態をデータとし、その交通行動のメカニズムを数理的に解析する手法として非集計モデルがある。入山者アンケート調査によって得られた、サンプルデータに基づき、尾瀬で取り得る主要なトリップ（登山コース）の選択確率を算出する数理モデルを試算する。
- ・この数理モデルを用いて、交通アクセスの変更（例えば大清水～一ノ瀬の自動車による輸送）等の政策が、入山者個人のトリップの選択率にどのような影響を及ぼすか、定量的に評価することが可能となる。

○関係者ヒアリング調査実施方法

入山者アンケート調査による尾瀬のトリップ選択構造（すなわち交通行動メカニズム）の解析を補完するため、登山道の特性や利用の実態をよく知る関係者へのヒアリング調査を実施する。次のような調査対象者が想定される。

- ・鳩待峠口、大清水口の施設関係者、山小屋関係者、交通関係者

- ・ガイド等

○低利用入下山口周辺の滞在時間延長

低利用入山口周辺の資源を発掘し、大清水をモデル地区とし資源発掘調査を実施。今年度は資源活用（森林、地質）に関するワークショップ等を開催する。

○目指すべき利用への誘導に向けて情報発信

尾瀬の多様な魅力を楽しんでもらうための回遊型の利用を誘導するため、関係機関が行う広報だけでなく、旅行商品、ガイドブック、旅行・山岳番組や雑誌等で提供されているパブリシティや広告（費用を出して各種有料情報媒体に掲載される場所や時間を買って行う宣伝）を含めて今後の情報発信方法を検討する。

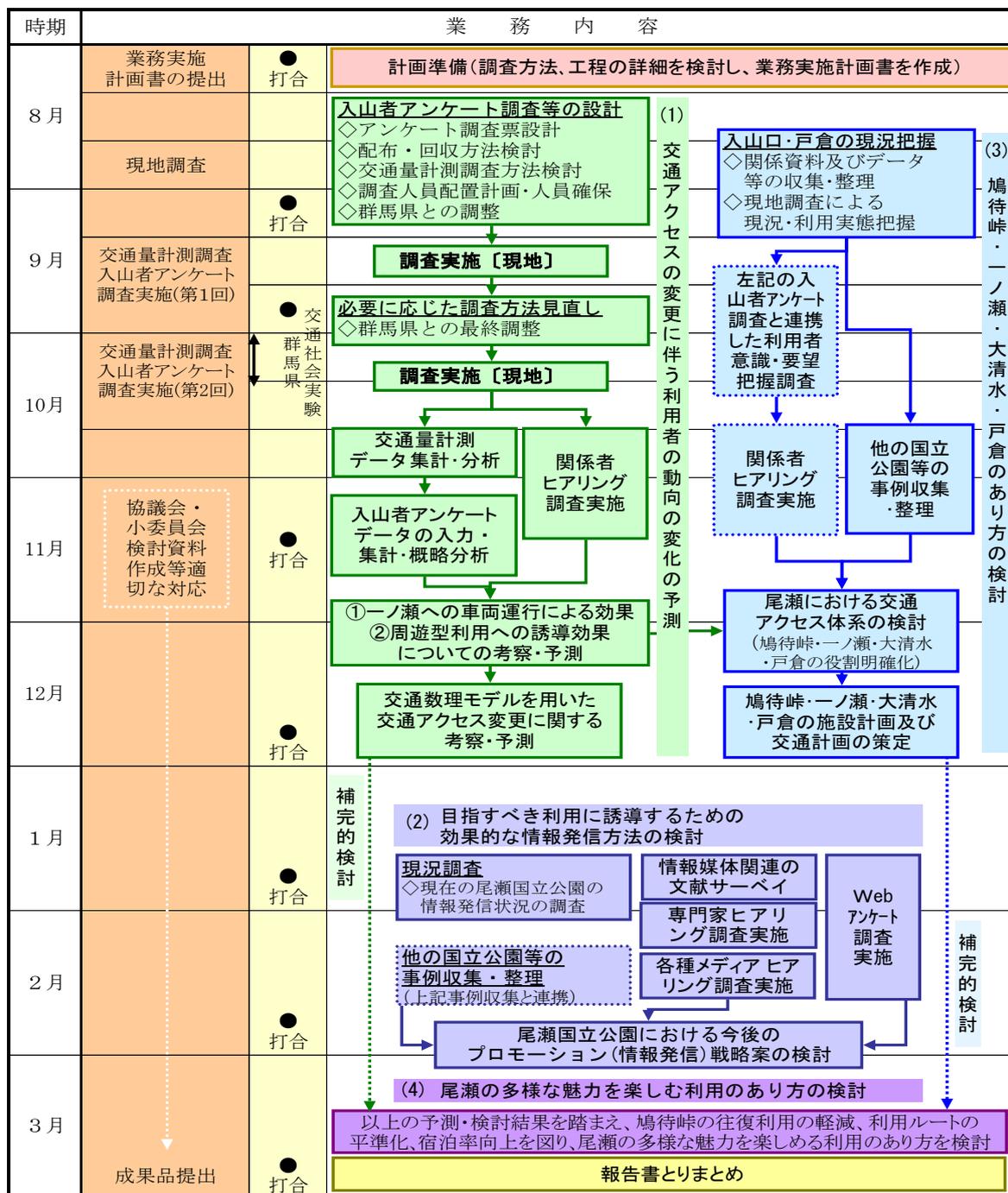
- ・ 尾瀬の現状を踏まえ、ターゲットとすべき利用者層や情報発信の内容を検討するための情報

項目	把握すべき情報	そのために必要な調査・収集すべきデータ等	調査方法
尾瀬において、回遊型・滞在型利用に誘導を図るターゲットとなる利用者層	尾瀬の多様な魅力をゆっくりと楽しみたいというニーズと、回遊型・滞在型の利用を行う条件(経済的、時間的條件)を持ちながら、情報や交通アクセス等が要因となって、実現できていない層の特定	先に示した入山者アンケートに基づき、以下のようなデータを収集 ○回遊型・宿泊型登山へのニーズ ○尾瀬への来訪動機となった情報媒体 ○尾瀬のトリップ（登山コース）を選択するための情報媒体	○入山者アンケート調査
	尾瀬への来訪経験がなく、正確な情報を知らない層の今後の尾瀬への来訪動機や、尾瀬に対して抱いているイメージ	主要な調査項目（データ） ○尾瀬の認知度 ○尾瀬への来訪動機 ○尾瀬のイメージ ○尾瀬のことを知った情報媒体	○Webアンケート調査

- ・ 効果的な情報媒体（組合せ＝メディアミックス含む）や情報発信の方法を検討するための情報

項目	把握すべき情報	調査方法	ヒアリング対象者・調査資料
観光客、登山者等 が旅行先や旅程を 決めるための情報 媒体	観光情報、登山情報を 市場に的確に発信して いくために、一般的に 有効な情報媒体、それ に関する近年の動向	○文献サーベイ 観光旅行、登山 等における既往 のアンケート調 査データをサー ベイ	○(社)日本観光振興協会「観光の 実態と志向」(経年的な調査を 実施) ○その他観光庁・(財)日本交通公 社等による観光客CS調査や 観光情報媒体に関する調査報 告書 ○既往の日本山岳会アンケート 調査 ○山と溪谷社等による読者アン ケート
情報媒体の一般的 な特性、プロモー ション戦略の基本	旅行に関わる多様な情 報媒体(メディア)の特 性、メディアミックスの 考え方、有効なターゲッ ト 尾瀬に関する記事や番 組のニーズ 各種情報媒体(メディア) においてパブリシティ を実現するための情報 リリース方法、広告を出 す場合の費用について も目安をつける	○専門家ヒアリン グ  ○各種情報媒体(メ ディア)へのヒア リング調査	専門家へのヒアリングを行う。  ○旅行会社、交通事業者ヒアリン グ 東武鉄道、関越交通、クラブツ ーリズム等 ○山岳雑誌(山と溪谷)編集長等 ○映像系(TV等)のディレクタ ー
他の国立公園にお けるプロモーション(情報発信)の実 態	情報発信の目的と内容 情報発信媒体 情報発信の対象者 情報発信の主体(連携の あり方)等の実態	○必要に応じてア ンケート調査や ヒアリング調査 を実施	○主要な国立・国定公園の管理事 務所や観光客誘致のための連絡 協議会等にヒアリング調査(ま たはアンケート調査)をかける。

### (3) 調査スケジュール



平成23年 紅葉シーズンについて調査を行う。

東日本大震災の影響により、例年と利用動向が違うことも考えられる。

平成24年 ミズバショウシーズン、ニッコウキスゲシーズン及び夏休みについて調査を行う。

平成25年 過去の調査を検証し、必要に応じた調査を行う。

## 第5章 群馬県 尾瀬らしい自動車利用社会実験

尾瀬らしい自動車利用の実現を目指し、鳩待峠における通年マイカー規制の段階的導入、低公害車両の導入及び入山口の魅力づくりを推進することとする「尾瀬国立公園快適利用の促進（利用分散等）に関する小委員会」の方針とともに、様々な魅力を持つ尾瀬をゆっくり楽しむ ため交通体系とアプローチが与える効果についてアンケート調査等を実施し検証する。

### 1 基本的な考え方

「尾瀬らしい自動車利用社会実験」で実施する個別事業について、体系的かつ効果的に実施するため、次に掲げる項目により整理した上で、事業展開の方針及び事業実施計画を策定する。

- ①公園計画の変更が行われないと実施できない事業
- ②民間と行政が協働で取り組むべき事業
- ③検証すべき評価項目（ア）新しい仕組みのあり方、イ）継続性（事業採算性）、ウ）環境への影響）を有する事業

### 2 事業展開の方針

実験期間を通して、設定した評価項目について評価を行い、事業の見直しや継続についての判断を行う。

#### 【主要な社会実験の目的と対応する事業】

〔主要な社会実験の目的〕	〔対応する事業〕
滞在型・回遊型の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マイカー規制にあわせ、大清水～一ノ瀬間に電動バスを運行</li> <li>●鳩待第1駐車場への車両乗り入れ規制</li> <li>●鳩待第2駐車場の利用</li> </ul>
鳩待峠のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鳩待第1駐車場への車両乗り入れ規制</li> <li>●鳩待第2駐車場の利用</li> </ul>
入山口の魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大清水～一ノ瀬間の電動バスの運行</li> <li>●旧道の利用</li> <li>●大清水～一ノ瀬間の歴史的経緯等の発信</li> <li>●鳩待第1駐車場への車両乗り入れ規制</li> <li>●鳩待第2駐車場の利用</li> </ul>

## 【社会実験実施事業の評価項目】

社会実験実施事業	① 公園計画の変更	② 民間と行政の協働	③ 評価項目			主要な実験の目的	具体的な評価項目
			ア) 新しい仕組み	イ) 継続性	ウ) 環境への影響		
鳩待第1駐車場への車両乗り入れ規制	●	●	●	●	●	★峠の雰囲気 ★戸倉拠点 ★滞在・回遊型★ 評価軸の設定	・戸倉の拠点化 ・入下山口の分散化 ・コース選択の多様化 ・継続性（事業採算性） ・入山者満足度
鳩待第2駐車場の利用		●	●	●	●	★峠の雰囲気 ★戸倉拠点 ★滞在・回遊型★ 評価軸の設定	・戸倉の拠点化 ・入下山口の分散化 ・コース選択の多様化 ・継続性（事業採算性） ・利用者満足度 ・周辺環境への影響
電動バスの運行	●	●	●	●	●	★戸倉拠点 ★滞在・回遊型 ★低公害車導入 ★入山口魅力 ★評価軸の設定	・戸倉の拠点化 ・入下山口の分散化 ・コース選択の多様化 ・継続性（事業採算性） ・利用者満足度 ・周辺環境への影響
旧道の利用	●	●	●	●	●	★入山口魅力 ★評価軸の設定	・戸倉の拠点化 ・入下山口の分散化 ・コース選択の多様化 ・継続性（事業採算性） ・利用者満足度 ・周辺環境への影響
大清水～一ノ瀬の歴史的経緯等の発信		●	●	●		★入山口魅力	・利用者満足度 ・コース選択の多様化

## 3 調査の手法等

## (1) パブリックコメント及び観察調査

○パブリックコメント…情報発信（実験実施の趣旨・目的を理解してもらう）及  
公聴

例）・各実施事業に対する評価（満足度等）について

- ・各実施事業後の利用意向について
- ・社会実験の認識状況について

○観察調査…アンケート調査だけでは見落としになってしまう動線や滞留時間等の把握

## (2) アンケート調査等（利用実態を把握し、今後の実験の評価軸を設定する）

○戸倉の拠点化…実態調査

○入下山口の分散化…実態調査

○コース選択の多様性…実態調査

聞き取り調査

例)・選択理由及び選択しなかった理由

・今後の利用意向

○継続性（事業採算性）…実態調査

○入山者（利用者）満足度…聞き取り調査

例)・事業に対する評価

・今後の利用意向

○周辺環境への影響…聞き取り調査

例)騒音、砂埃、印象等

(3) アンケートの配付方法等

- ・直接配付（直接回収、ポスト回収）
- ・地域への配付
- ・事業者・団体等を通じた配付
- ・インターネット等

(4) 調査対象属性

- ・入山者
- ・地元住民及び関係者
- ・交通事業者
- ・旅行業者、出版社
- ・尾瀬に関心を持つ全国民

#### 4 全体計画（3カ年）

	社会実験実施時期	実施事業等（資料参照）	
23年度	10月（1週間）	H-1~O-3	
24年度	7月（2週間）	H-1~O-3	小委員会の下に、事業毎のプロジェクトチームを設置し、早期に実現が図れるもの等を中心に検討
25年度	7月、10月（各1週間）	H-1~O-3	小委員会の下に、事業毎のプロジェクトチームを設置し、早期に実現が図れるもの等を中心に検討

・来年度以降の詳細な実施内容は、今年度の実施結果をふまえて検討することとする。

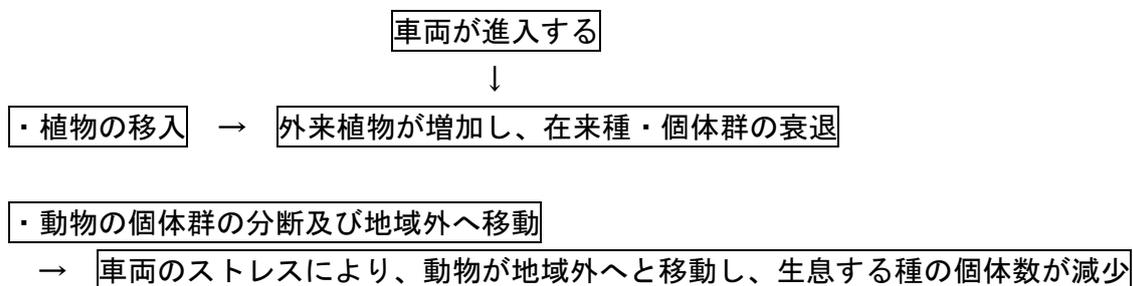
## 第6章 実施にあたって配慮すべき事項

### 1 自然環境の保全

自然環境の保護及び主要入山口の国立公園らしい雰囲気重視し、それらを損なわないよう配慮する。

社会実験にあたっては、大清水～一ノ瀬間の文献調査を行い、社会実験を通じ、自然環境及び生物環境への影響の把握に努める。

車両の運行によるインパクトとして、「線的なエリアの利用」によるものが考えられ、それに対するレスポンス、影響は次の通り。



車両運行による自然環境への影響は、以下が考えられる。

- ・車道沿いで、車の利用に伴った外来植物の侵入の程度及び外来植物による在来種に対する影響
- ・車道沿いで、車の利用に伴った外来植物の侵入
- ・車道沿いで、車の利用に伴ったストレスによる動物の個体群の分断及び域外への移動に対する影響

### 2 情報の公開

本計画の実施にあたっては、情報の公開と説明を十分に行い、透明性を保つようにし、必要に応じて計画を見直し、合意を得ながら進める。

尾瀬国立公園協議会 快適利用促進（利用分散等）に関する小委員会で調査及び社会実験について検討、評価するとともに、協議会に報告する。

その他

尾瀬サミット 調査及び実験の結果を報告する。

## 資 料

### ●尾瀬の多様な魅力を楽しむ利用への誘導 経緯

尾瀬の今後のあり方を示した「尾瀬ビジョン」において、利用に関する課題として適正利用の推進があり、その具体的な取り組みとして「快適利用の推進」がある。

尾瀬国立公園協議会（以下：協議会）の「快適利用促進（利用分散等）に関する小委員会」（以下：小委員会）においては、「快適利用の推進」を「国立公園のトップランナーとしての尾瀬らしい自動車利用」のテーマの基に検討を行い、

現状の交通体系の見直しとして

- ・戸倉を交通の拠点として、主要入山口への通年マイカー規制を段階的に導入、バス運行の充実を図る。
- ・鳩待峠の主要入山口としての雰囲気作り
- ・シャトルバスを低公害車両に段階的に更新

利用分散化に関する課題に対する対策として

- ・大清水周辺の登山道の魅力アップ（沼田街道の復活）による利用誘導を図る。

が提案され、協議会にも報告され、関係機関が「尾瀬らしい自動車利用」の取り組みとして、進めてゆくこととなった。

「尾瀬らしい自動車利用」の取り組みは、「尾瀬における快適利用」の推進のためのものであり、小委員会において「尾瀬における快適利用」として

- ・利用の分散化（鳩待峠一局集中の解消、各低利用入山口の利用の推進）
- ・様々な魅力をもつ尾瀬をゆっくり楽しむ（山小屋宿泊、多様なコース選び）の
- ・国立公園として適正な環境の確保（自然環境の保護、主要入山口の雰囲気）

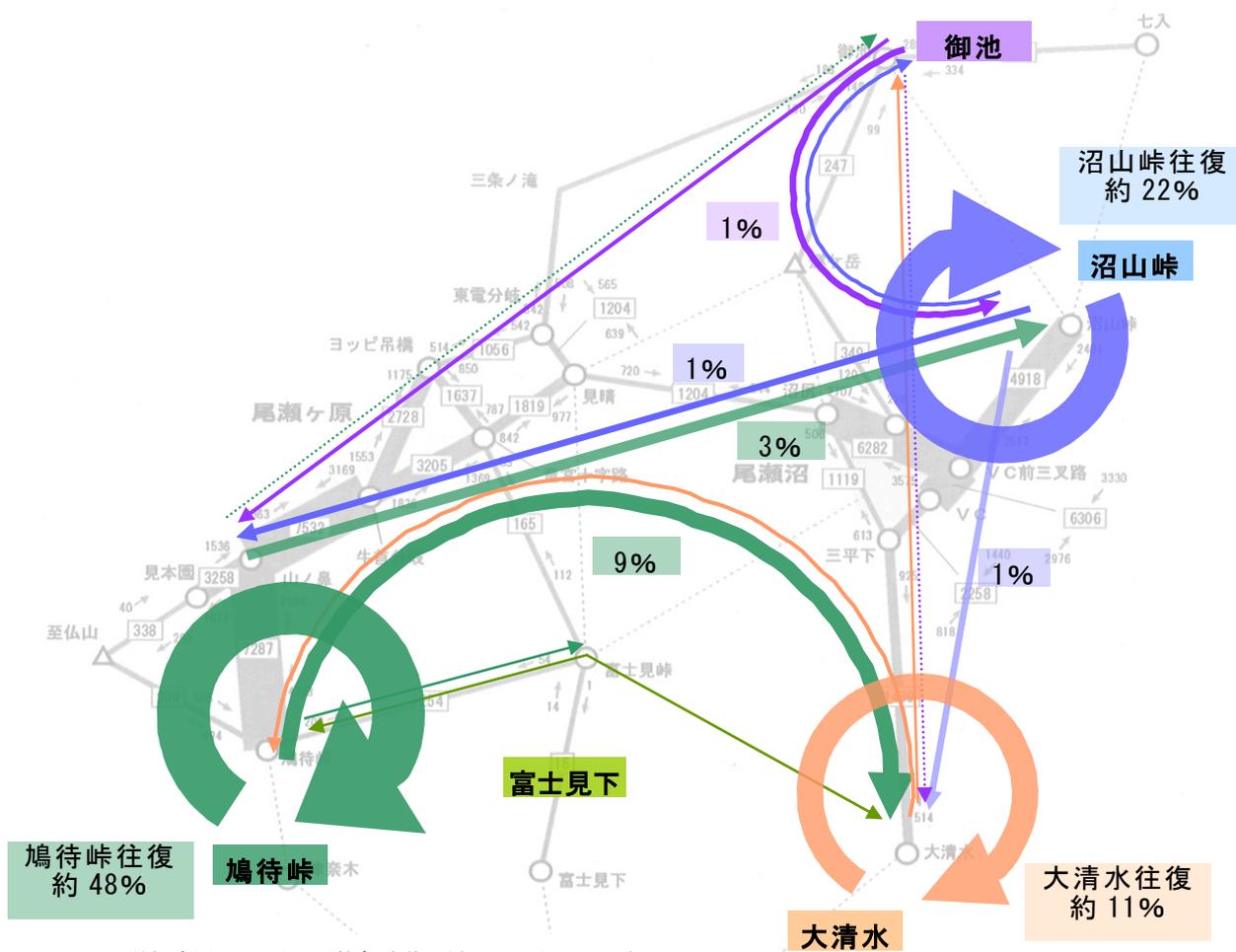
も提案されている。

まずは、「尾瀬らしい自動車利用」進めた上で、「尾瀬の多様な魅力を楽しむための利用」のための調査を進めることとなった。

● 尾瀬における利用の現状

近年尾瀬には年間30万人の利用があるが、入下山口、利用されるルートに偏りみられ、日帰り利用が多い。

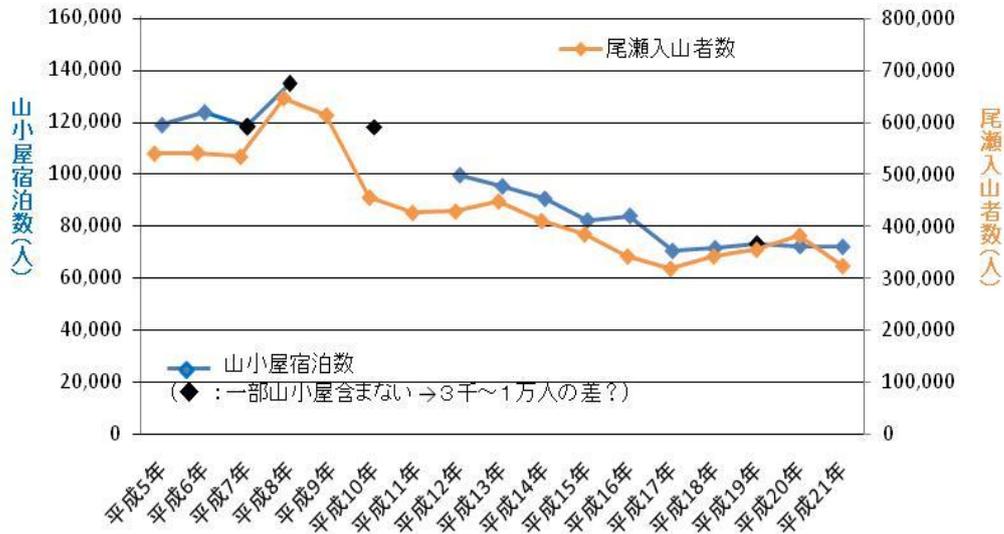
- ・ 鳩待峠口の利用 約60%
- ・ 鳩待峠～尾瀬ヶ原の往復利用 約50%
- ・ 尾瀬内での宿泊 約30%



注) 右図で入下山口で数字 (%) が表示されていないルートは、1%以下

平成 22 年度尾瀬国立公園交通計画に関する調査検討業務  
関東地方環境事務所

尾瀬入山者と山小屋宿泊者数の推移



平成 22 年度尾瀬国立公園交通計画に関する調査検討業務  
 関東地方環境事務所

○要 因

入下山口、利用されるルートへの偏り、日帰り利用が多い要因として、利用者の来訪目的、地形、交通アクセスがある。

利用者の目的地

- ・多くの利用者の目的地が尾瀬ヶ原である。

鳩待峠口から徒歩 1 時間

富士見下口から徒歩 5 時間

大清水口から徒歩 7 時間

地 形

- ・入山口と目的地の標高差が最も少ない。

鳩待峠口      1 9 3 m

富士見下口    7 1 0 m

大清水口      5 7 0 m

交 通

- ・首都圏からのアクセスが最も便利
- ・日帰り、夜行日帰り圏

尾瀬地域の入山口への交通アクセスと距離（道路距離、時間距離）

入山口	自家用車によるアクセス	公共交通機関によるアクセス
鳩待峠 群馬県 片品村 戸倉	沼田 IC～（R120）～鎌田～（R401）～戸倉～鳩待峠【約 50km】	上越新幹線上毛高原駅～戸倉（鳩待峠行きバス連絡所）～鳩待峠 【約 2 時間 30 分】
		上越線沼田駅～戸倉（鳩待峠行きバス連絡所）～鳩待峠【約 2 時間】
	水上 IC～（R291、県道水上片品線）～湯の小屋温泉～津奈木～鳩待峠【約 60km】	上越新幹線上毛高原駅～水上～鳩待峠【約 2 時間 10 分】
富士見下 同上	沼田 IC～（R120）～鎌田～（R401）～戸倉～富士見下【約 45km】	上越新幹線上毛高原駅～戸倉（鳩待峠行きバス連絡所）～富士見下 【約 2 時間 10 分】
	水上 IC～（R291、県道水上片品線）～湯の小屋温泉～戸倉～富士見下【約 70km】	上越線沼田駅～戸倉（鳩待峠行きバス連絡所）～富士見下【約 1 時間 40 分】
大清水 同上	沼田 IC～（R120）～鎌田～（R401）～戸倉～大清水【約 50km】	上越新幹線上毛高原駅～大清水 【約 2 時間 15 分】
	水上 IC～（R291、県道水上片品線）～湯の小屋温泉～戸倉～大清水【約 70km】	上越線沼田駅～大清水 【約 1 時間 45 分】
御池 沼山峠 福島県 檜枝岐村	西那須野塩原 IC～（R400）～上三依～（R121）～早坂～（R352）～内川～御池～沼山峠【約 110km】	野岩鉄道会津高原尾瀬口駅～御池～沼山峠【約 2 時間】
	小出 IC～（R352、シルバーライン）～銀山平～（R352）～御池～沼山峠【約 90km】	野岩鉄道会津田島駅～御池～沼山峠 【約 2 時間 50 分】
小沢平	小出 IC～（R352、シルバーライン）～銀山平～（R352）～小沢平【約 70km】	上越新幹線浦佐～奥只見ダム＝尾瀬口～小沢平【約 2 時間 30 分】
		野岩鉄道会津高原尾瀬口駅～御池～小沢平【約 2 時間 40 分】

資料) 各種ガイドブックおよび尾瀬保護財団ホームページ

平成 22 年度尾瀬国立公園交通計画に関する調査検討業務  
関東地方環境事務所

●群馬県 「尾瀬らしい自動車利用社会実験」 事業実施計画書

1 実験日時

(1) 実験日：平成23年10月3日（月）～10月9日（日）の7日間

(2) 電動バス運行時間：7時～16時

WEB-1・車両寸法：L5.8×W2.0×H2.8 ・座席定員：11名（車椅子1名分）

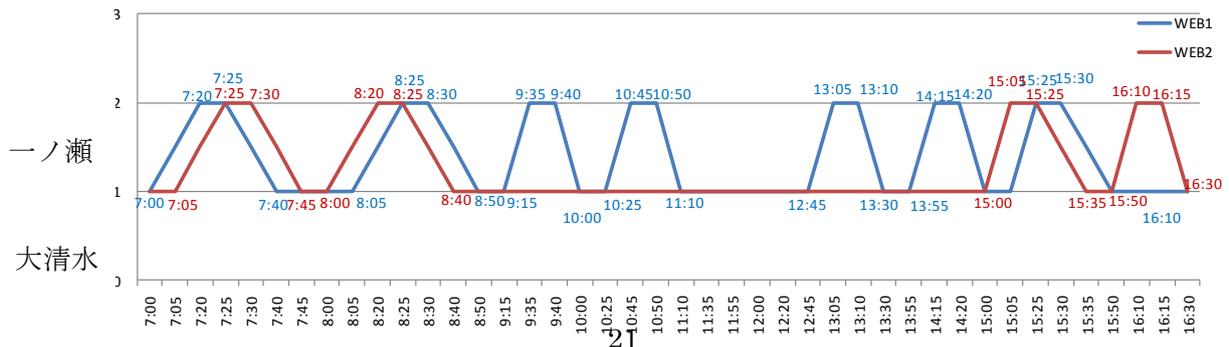
WEB-2・車両寸法：L5.8×W2.0×H2.8 ・座席定員：12名



尾瀬における電動バス運行スケジュール案

WEB1	
大清水	一ノ瀬
7:00	7:20
7:40	7:25
8:05	8:25
8:50	8:30
9:15	9:35
10:00	9:40
10:25	10:45
11:10	10:50
11:35	11:55
12:20	12:00
12:45	13:05
13:30	13:10
13:55	14:15
14:40	14:20
15:05	15:25
15:50	15:30

WEB2	
大清水	一ノ瀬
7:05	7:25
7:45	7:30
8:00	8:20
8:40	8:25
14:40	15:00
15:35	15:25
15:50	16:10
16:30	16:15



## 2 個別事業実施計画

事業名称	H-1	実施場所	戸倉～鳩待第1駐車場
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳩待峠のアメニティの向上</li> <li>・戸倉の拠点化による入下山口の分散化</li> </ul>		
実施者	環境省、片品村、戸倉区、東京電力、尾瀬林業、関越交通、尾瀬エコトランスファー協同組合、尾瀬観光タクシー、群馬県		
関係機関	日本自然保護協会、利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）、尾瀬保護財団		
事業及び作業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 鳩待第1駐車場への車両（シャトルバス等）乗り入れ規制</li> <li>2 鳩待峠への業務用車両乗り入れ規制</li> <li>3 告知看板の作成 …告知文・設置箇所・設置方法の決定</li> <li>4 アンケート調査</li> </ol>		



【凡例】 バス待ち・歩行者等 乗合シャトルバス等 観光バス 業務用車両

※マイカー規制期間中も、鳩待峠には乗合シャトルバス・一般の観光バス、業務用許可車両等の乗り入れは可能であり、通常、第1駐車場には乗客待ちのバスや業務用関係者車両の駐車がある。

事業名称	H-2	実施場所	戸倉～鳩待第2駐車場
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳩待峠のアメニティの向上</li> <li>・戸倉の拠点化による入下山口の分散化</li> </ul>		
実施者	環境省、片品村、戸倉区、東京電力、尾瀬林業、関越交通、尾瀬エコトランスファー協同組合、尾瀬観光タクシー、群馬県		
関係機関	日本自然保護協会、利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）、尾瀬保護財団		
事業及び作業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 シャトルバス運行等決定 <ul style="list-style-type: none"> <li>…安全対策</li> <li>…運行・転回方法決定</li> </ul> </li> <li>2 業務用車両の駐車</li> <li>3 告知・誘導看板の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>…告知文・設置箇所・設置方法の決定</li> </ul> </li> <li>4 アンケート調査</li> <li>5 ヒアリング調査（交通事業者）</li> </ol>		

事業名称	O-1	実施場所	大清水～一ノ瀬（休憩所手前）
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸倉の拠点化による入下山口の分散化</li> <li>・大清水～一ノ瀬間の時間短縮による滞在型・回遊型利用の促進</li> <li>・低公害車導入に係る技術的課題の検証</li> <li>・継続性（事業採算性）の検証</li> </ul>		
実施者	片品村、戸倉区、早稲田大学、東京電力、尾瀬林業、群馬県・利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）、		
関係機関	環境省、日本自然保護協会、関越交通、尾瀬保護財団		
事業及び作業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 電動バスの運行 <ul style="list-style-type: none"> <li>…運行ルート・乗降場所・運行時間の決定</li> <li>…充電のための電気設備工事</li> </ul> </li> <li>2 路面の凸凹の整地</li> <li>3 支障木の剪定</li> <li>4 アンケート調査</li> <li>5 歩行者や周辺環境への影響調査（実験期間中の観察） <ul style="list-style-type: none"> <li>…騒音・砂埃・飛び石の状況把握、動物の反応調査等</li> </ul> </li> </ol>		

事業名称	〇-2	実施場所	大清水～一ノ瀬
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大清水～一ノ瀬を静かに歩きたい人のニーズに応える</li> <li>・入山口（大清水）の魅力づくり</li> </ul>		
実施者	環境省、片品村、戸倉区、尾瀬山小屋組合、東京電力、尾瀬林業、群馬県・利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）		
関係機関	日本自然保護協会、尾瀬保護財団		
事業及び作業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 危険箇所の除去</li> <li>2 刈払い</li> <li>3 告知・誘導看板の設置</li> <li>4 アンケート調査</li> </ol>		

事業名称	〇-3	実施場所	大清水～一ノ瀬周辺
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾瀬への理解を深める</li> <li>・入山口（大清水）の魅力づくり</li> </ul>		
実施者	環境省、片品村、戸倉区、日本自然保護協会、東京電力、尾瀬林業、尾瀬山小屋組合、尾瀬保護財団、群馬県		
関係機関	利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）		
事業及び作業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 説明板等の設置 …説明文の作成、設置箇所・設置方法の決定</li> <li>2 説明パンフの作成 …説明文の作成、作成数・配付箇所・方法の決定</li> <li>3 ミニ写真展の開催 …開催場所の決定、展示写真の収集</li> <li>4 アンケート調査</li> </ol>		

### 3 社会実験の実施フロー

	H-1	H-2	O-1	O-2	O-3
5月					
6月	・関係者打合せ	・関係者打合せ	・関係者打合せ ・旅行会社等周知	・関係者打合せ	・関係者打合せ
7月	・現地打合わせ ・担当者会議	・現地打合わせ ・担当者会議	・旅行会社等周知 ・現地打合わせ ・担当者会議	・現地打合わせ ・担当者会議	・現地打合わせ ・担当者会議
8月	・周知看板設置	・周知看板設置	・周知看板設置		
9月			・刈り払い ・説明看板設置	・危険箇所除去 ・刈り払い ・注意喚起看板設置	・パンフ作成 ・説明板設置 ・写真展設営
10月	<b>社 会 実 験</b>				
	・周知看板撤去	・周知看板撤去	・説明板撤去 ・旅行会社ヒアリング	・注意喚起看板撤去	・説明板撤去 ・写真展撤去
11月			・旅行会社ヒアリング		
12月 ～ 3月					

個別事業実施計画と進捗状況 H23.9.16 群馬県

概要

- ・ 戸倉区との意見交換会（6/30）、片品村尾瀬交通対策連絡協議会（7/27）において説明、了承
- ・ 大清水～一ノ瀬間の凸凹整地（9/6完了）と電動バスの試験走行の実施（9/7）
- ・ 大清水～一ノ瀬旧登山道の笹の荒刈り、危険除去等実施（7/28、8/22）
- ・ 第二駐車場転回のため鳩待への運行日程変更調整（山小屋・ヘリ会社：7月中旬～）  
転回・人員配置案作成のため、管理者・運行事業者と現地打合せ及び調整（7/28、8/7）
- ・ 社会実験関係全体のチラシ配布と地元説明、対外説明の実施（8月下旬～）
- ・ アンケート調査方法等を環境省等と協議（8/10、8/31）

事業名称	H - 1	実施場所	戸倉～鳩待第1駐車場
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鳩待峠のアメニティの向上</li> <li>・ 戸倉の拠点化による入下山口の分散化</li> </ul>		
実施者	環境省、片品村、戸倉区、東京電力、尾瀬林業、関越交通、尾瀬エコトランスファー協同組合、尾瀬観光タクシー、群馬県		
関係機関	日本自然保護協会、利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）、尾瀬保護財団		
事業及び作業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 鳩待第1駐車場への車両（シャトルバス等）乗り入れ規制</li> <li>2 鳩待峠への業務用車両乗り入れ規制</li> <li>3 告知看板の作成 ...告知文・設置箇所・設置方法の決定</li> <li>4 アンケート調査</li> </ol> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">H - 2 と併せて記載</div>		



【凡例】 バス待ち・歩行者等 乗合シャトルバス等 観光バス 業務用車両

マイカー規制期間中も、鳩待峠には乗合シャトルバス・一般の観光バス、業務用許可車両等の乗り入れは可能であり、通常、第1駐車場には乗客待ちのバスや業務用関係者車両の駐車がある。

事業名称	H - 2	実施場所	戸倉～鳩待第2駐車場
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳩待峠のアメニティの向上</li> <li>・戸倉の拠点化による入下山口の分散化</li> </ul>		
実施者	環境省、片品村、戸倉区、東京電力、尾瀬林業、関越交通、尾瀬エコトランスファー協同組合、尾瀬観光タクシー、群馬県		
関係機関	日本自然保護協会、利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）、尾瀬保護財団		
事業及び作業概要	<p>1 シャトルバス運行等決定 第2駐車場転回のためヘリポート協使用に係る調整 7月中旬ヘリ運航日程山小屋調整(山ノ鼻・見晴) 下旬ヘリ運航日程の変更依頼(ヘリ会社) 8月上旬転回案協議・作成(管理者、交通事業者) 8月下旬陸運支局乗降場所変更届出 誘導員配置案協議・作成(管理者、交通事業者) 入口対策は最終検討中</p> <p>...安全対策</p> <p>...運行・転回方法決定 上記のとおり</p> <p>2 業務用車両の駐車 山小屋関係者、工事業者に実験期間中の駐車場所変更、駐車台数を減らす協力依頼(8月下旬)</p> <p>3 告知・誘導看板の作成 ...告知文・設置箇所・設置方法の決定 旅行業協会、バス協会、ガイド協会に対し、チラシ等により周知(8月下旬) 山小屋(山ノ鼻、見晴、尾瀬沼東岸)訪問と説明(8月中下旬) 県及び関係者HPに掲載依頼、周知と電動バス乗車受付開始(8月下旬～) ツアー会社に個別に社会実験内容を連絡(8月下旬～) 実験期間中の尾瀬学校実施校に対し、鳩待第2駐車場に駐車しないよう依頼連絡及び文書通知(9月上旬)</p> <p>4 アンケート調査 環境省等と設計協議中(A調査)</p> <p>5 ヒアリング調査(交通事業者) 環境省等と設計協議中(関係者ヒアリング調査)</p>		

事業名称	O - 1	実施場所	大清水～一ノ瀬(休憩所手前)
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸倉の拠点化による入下山口の分散化</li> <li>・大清水～一ノ瀬間の時間短縮による滞在型・回遊型利用の促進</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低公害車導入に係る技術的課題の検証</li> <li>・継続性（事業採算性）の検証</li> </ul>
実施者	片品村、戸倉区、早稲田大学、東京電力、尾瀬林業、群馬県・利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）
関係機関	環境省、日本自然保護協会、関越交通、尾瀬保護財団
事業及び作業概要	<p>1 電動バスの運行 ...運行ルート・乗降場所・運行時間の決定 9 / 7 電動バスの試験走行実施、乗降場所確定 試験結果を踏まえ、早稲田が運行時刻最終調整中</p> <p>...充電のための電気設備工事 充電施設設置場所決定</p> <p>2 路面の凸凹の整地 6月下旬 現地立会い（早稲田大学、土木事務所 交通事業者ほか） 9 / 6 工事完了（今後大雨があれば再確認）</p> <p>3 支障木の剪定 試験走行時支障なし、道路際の草刈り実施（予定）</p> <p>4 アンケート調査 環境省等と設計協議中（B調査）</p> <p>5 歩行者や周辺環境（動植物等）への影響調査（実験期間中の観察） ...騒音・砂埃・飛び石の状況把握、動物の反応調査等 試験走行したところ、騒音・砂埃・飛び石、動物 への特異な影響は観察されず。 なお混雑時、雨天時は、低速運行とクマ鈴を活用</p>

事業名称	O - 2	実施場所	大清水～一ノ瀬
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大清水～一ノ瀬を静かに歩きたい人のニーズに応える</li> <li>・入山口（大清水）の魅力づくり</li> </ul>		
実施者	環境省、片品村、戸倉区、尾瀬山小屋組合、東京電力、尾瀬林業、群馬県・利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）		
関係機関	日本自然保護協会、尾瀬保護財団		
事業及び作業概要	<p>1 危険箇所の除去 7 / 28、8 / 22 に対策実施 測量用の突出した杭撤去済、朽ちた木道から突出しているボルトに赤リボン設置 （管理者、山小屋、財団と実施）</p> <p>2 刈払い 7 / 28、8 / 22 実施 荒刈りを実施 直前に倒木等処理を実施（山小屋等協力予定）</p> <p>3 告知・誘導看板の設置 入り口、足下注意、頭上注意を表示（予定：県）</p>		

事業名称	O - 3	実施場所	大清水～一ノ瀬周辺
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾瀬への理解を深める</li> <li>・入山口（大清水）の魅力づくり</li> </ul>		
実施者	環境省、片品村、戸倉区、日本自然保護協会、東京電力、尾瀬林業、尾瀬山小屋組合、尾瀬保護財団、群馬県		
関係機関	利根沼田県民局（行政事務所、土木事務所、環境森林事務所）		
事業及び作業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 説明板等の設置 ...説明文の作成、設置箇所・設置方法の決定 一ノ瀬と岩清水に当時の写真と経過を記した看板設置（予定）</li> <li>2 説明パンフの作成 ...説明文の作成、作成数・配付箇所・方法の決定 周知パンフを作成中</li> <li>3 ミニ写真展の開催 ...開催場所の決定 ...展示写真の収集 大清水休憩所の借用について依頼、下見済 パネル約30枚の作成について発注済み</li> <li>4 アンケート調査 環境省等と設計協議中（B調査）</li> </ol>		

## 尾瀬の入山口（鳩待峠・大清水）で、 「尾瀬らしい自動車利用社会実験」を実施します

群馬県では、環境省と連携し、尾瀬関係者の協力を得て、尾瀬の多様な魅力をゆっくりと楽しむ利用の促進を目指し、アクセスの利便性の変化が利用者皆様の動きに与える影響を把握することにより、入山口の魅力づくりや自動車利用のあり方などを検討するため、3カ年計画で社会実験を行います。なお、23年度の取り組みは、下記のとおりです。

### 記

1 日時 平成23年10月3日（月）～9日（日）

2 場所 鳩待峠・大清水

3 内容

- (1) 鳩待峠 … バス・タクシーの乗降場所を鳩待第2駐車場に変更し、車の無い、静かで落ち着いた雰囲気の入山口を作り出すことを目指します。  
(実験期間中は、鳩待第1駐車場にバス等は入れません。)



### 【凡例】

バス待ち・歩行者等

乗合バス等

観光バス

関係車両

当日は、現地係員の指示に従ってください。

- (2) 大清水 … 尾瀬の自動車利用のあり方を検討するとともに、入山口の魅力づくりを目指し、
- ・大清水～一ノ瀬間で電動マイクロバス2台を実験運行します。  
(無料。1台あたりの乗車定員は12人。なお、裏面を参照ください。)
  - ・大清水～一ノ瀬間の旧道の通行を可とします。(ぬかるみに注意)
  - ・沼田街道の歴史、大清水～岩清水間の過去の道路建設中止等を発信します。



電動バス（早稲田大学所有）



大清水～一ノ瀬（旧道）

- (3) 利用者満足度調査等の実施 … 実験期間中の利用者に対しアンケート調査を実施するとともに、群馬県HPを活用し、社会実験に対する意見募集等を行います。

#### 4 大清水～一ノ瀬間の電動バスの運行（予定）

実験期間の1週間にわたり、午前7時から午後4時の間で、8往復程度の運行を予定しています。（概ね1時間15分に1回程度の運行）

未舗装の道路であるため、道路の整地工事が完了した9月上旬に試験走行を行い、これを踏まえ9月中旬には、詳細な運行スケジュールを決定する予定です。試験走行の結果や実験期間中の天候により路面状況が悪化する場合には、予定した運行とならない場合もありますので、あらかじめご承知おきください。

#### 5 電動バス乗車の申込について

##### （1）申込期間

9月1日（木）から9月19日（月）の間、受付します。

##### （2）申込方法

Eメール又は往復はがきに、以下の項目について記載の上、（3）の送付先までお送りください。

乗車場所（「大清水」または「一ノ瀬」）  
乗車の希望日および時間帯（例「何日の何時台」）  
（第3希望までお書きいただけます。）  
希望人数  
代表者氏名  
連絡先（ Eメールの場合はメールアドレスおよび電話番号）  
          （ 往復はがきの場合は住所および電話番号）

乗車場所 大清水（一ノ瀬行き） 一ノ瀬（大清水行き）  
運行日 10月3日（月）から9日（日）  
運行時間 午前7時台から午後4時台

##### （3）送付先

群馬県自然環境課 尾瀬保全推進室  
E-mail：kanshizen@pref.gunma.jp  
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1

##### （4）その他

同じ日時の際に希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。ご了承ください。運行時間のご連絡と併せて、抽選結果を9月21日（水）に発送する見込みです。

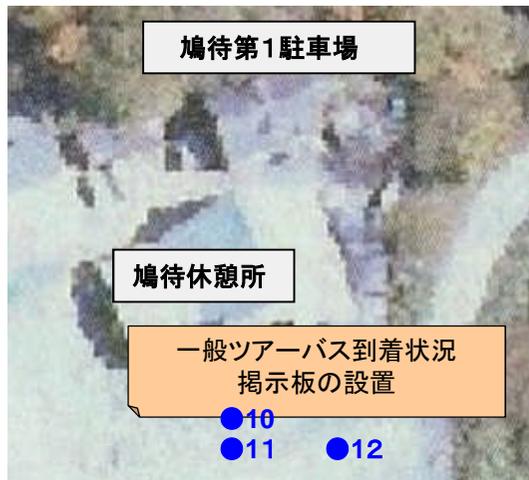
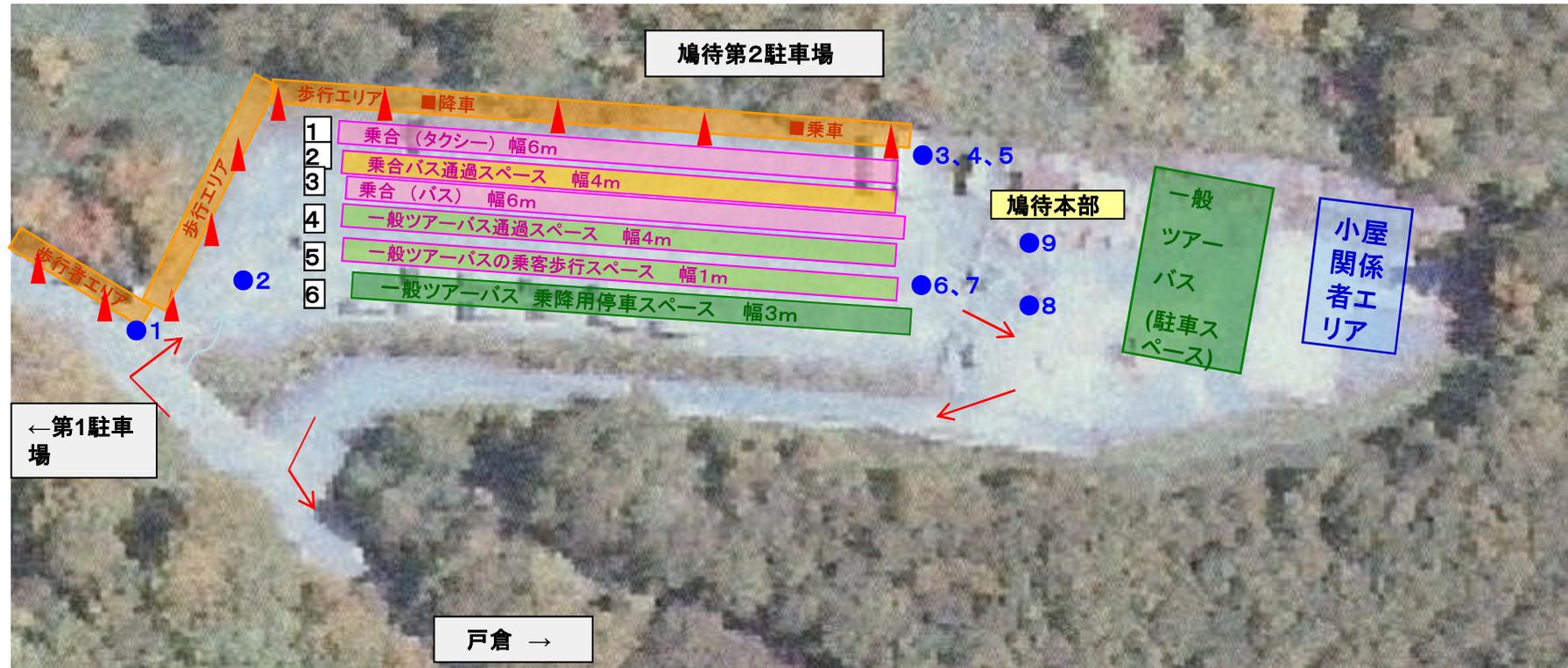
#### 6 お問い合わせ先等

群馬県環境森林部 自然環境課 尾瀬保全推進室 電話：027-226-2881  
e-mail：kanshizen@pref.gunma.jp

参考URL：群馬県ホームページ <http://www.pref.gunma.jp>

尾瀬 社会実験 で 検索してください。

# 社会実験 鳩待峠 車両・人員 配置案 (20110817版)



## 歩行・乗車 エリア

▲ コーン等  
(コーン間はロープ設置)

1 ~ 6 車両レーン等

乗合バス・タクシー

一般ツアーバス

社会実験の鳩待本部の設置

## 誘導員 配置

- 1 バス誘導・歩行者安全整理
- 2 バス誘導・歩行者安全確認
- 3 乗合バス・タクシー誘導指示
- 4 乗合バス・タクシー誘導指示
- 5 乗合バス・タクシー誘導指示
- 6 一般ツアーバス 乗降・駐停車誘導(番号札渡し)
- 7 一般ツアーバス 乗降・駐停車誘導(番号札渡し)
- 8 一般ツアーバス 駐場所誘導
- 9 ツアーバス到着情報連絡、山小屋関係車両カギ管理
- 10 乗車方法案内
- 11 ツアーバス到着情報掲示
- 12 全体フリーサポート

# 大清水



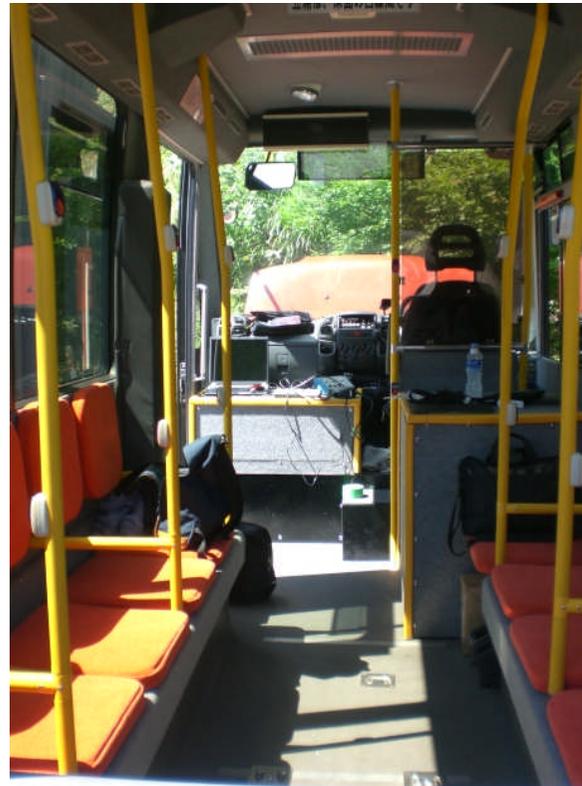
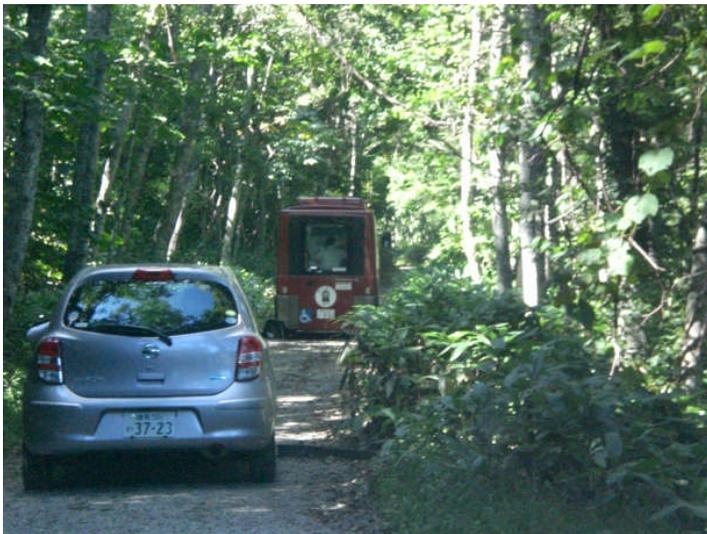
一ノ瀬（休憩所下。乗降予定場所）



## 鳩待第2駐車場バス配置・転回打合せ



## 9/7電動バス試験走行状況



# 尾瀬の多様な魅力を楽しむ利用への誘導 —自動車利用の検討などによる—

## 目指すべき尾瀬の利用のあり方

尾瀬ヶ原、尾瀬沼、各入下山口など、尾瀬のもつ  
様々な魅力をゆっくり楽しむ

現状と課題

- ・半数が鳩待峠を往復利用し、利用されるルートに偏りが見られる。
- ・尾瀬内での宿泊率が約3割であるなど、滞在時間が短い。

## 目指すべき利用のあり方への誘導方策

- (1) 自動車によるアクセスを変えることで、これまでと異なるルート設定を可能にする。
- (2) 低利用入下山口周辺の滞在時間を延長し、利用を促進する。
- (3) 主要な入山口である鳩待峠の利用のあり方を検討する。
- (4) 目指すべき利用への誘導に向けて情報発信していく。

自然環境の保護および主要入山口の国立公園らしい雰囲気重視し、それらを損なわないよう配慮しつつ実施

## 具体的な方策

### (1) 自動車によるアクセスの検討

以下により、回遊型の利用を促進する。

#### ①一ノ瀬までの車両の運行

大清水・一ノ瀬間の時間短縮により、入下山口としての大清水を利用しやすくする。

#### ②戸倉を拠点とした交通体系の構築

現在、マイカー利用者が鳩待峠を利用する際には戸倉が拠点となるため、他の入下山口から戸倉までのアクセスを容易にする。

### (2) 低利用入下山口周辺の滞在時間延長等 低利用入下山口周辺の資源発掘

### (3) 鳩待峠の利用のあり方の検討 鳩待峠への車両の進入の規制

### (4) 目指すべき利用へ誘導する情報発信 多様な利用のあり方を情報発信

- 取組を実施した場合の利用者の流れをアンケート調査などにより予測。
- 一ノ瀬までの車両運行の技術的課題等の検証。

一ノ瀬までの旧道の整備・供用(歩行利用のニーズに対応)、車道の歴史的経緯に関する情報発信を実施。  
※(2)にも関連

昨年度、大清水をモデル地区とし資源発掘調査を実施。今年度、資源活用に関するワークショップを開催予定。

一ノ瀬までのバス運行に合わせ、鳩待峠第1駐車場から車両を無くす実験を実施。

ターゲットとすべき利用者層、効果的な情報発信方法を検討

## 今年度の実施内容

【環境省】公園利用者を対象としたアンケート調査等を実施し、交通アクセスを変更した場合の利用者の行動の変化を予測する。

【群馬県】10月3日(月)から9日(日)までの7日間、電動バスを試験的に運行。技術的課題・事業採算性を検証するとともに、利用者の満足度等を調査する。 O-1

【群馬県】旧道の危険箇所の除去等を行い、バスの試験運行中、歩行が可能な状態にする。 O-2

【群馬県】看板等の設置により、車道開発の経緯に関する情報発信を行う。利用者への啓発効果を調査する。 O-3

【環境省】大清水周辺の森林、地質をテーマとするワークショップを開催し、今後の活用方を検討する。

【群馬県】第1駐車場を車両のない状態にする。あわせて、利用者等を対象に、ふさわしい鳩待峠のあり方に関する意識調査等を実施。また、第2駐車場を代替的に使用する際の技術的課題を検証するとともに、交通業者へのヒアリングを行う。 H-1 H-2

【環境省】公園利用者を対象としたアンケート調査等により、効果的に情報発信をするための適切な情報媒体や対象とすべき利用者層を検討する。

O-1~3、H-1~2の個別事業の詳細については、「尾瀬らしい自動車利用社会実験」実施計画(案)の各項目を参照。

今年度の実施結果は小委員会および協議会に報告し、それをふまえて来年度以降の取組を検討することとする。

**平成 23 年度 尾瀬国立公園 公園の多様な魅力を楽しむための自動車利用のあり方検討調査**  
**「尾瀬らしい自動車利用社会実験」と連動した入山者流動実態および意識調査**  
**調査計画**

## 1. 調査方針

尾瀬国立公園協議会「尾瀬国立公園快適利用の促進（利用分散等）に関する小委員会（以下「小委員会」という）」では、自動車利用のあり方を見直すことにより、現在、鳩待峠等に集中し、ピストン型・日帰り型の利用が多い利用形態から、尾瀬の多様な魅力を滞在して楽しむ利用形態へと転換を図るための検討が進められている。

このような経緯を踏まえつつ、今般、群馬県が実施する「尾瀬らしい自動車利用社会実験（以下「交通社会実験」という）」の効果検証と連動させながら、入山者流動実態および意識に関する調査を行うことにより、以下の解明、検討を行っていくことが目的となる。

- 交通アクセスの変更（主として大清水～ノ瀬の電動バス運行）に伴う入山者の行動の変化を予測
- 国立公園の入山口（主として鳩待峠、大清水）のあり方の検討
- 目指すべき利用に誘導するための効果的な情報発信方法の検討

このような調査目的を達成するため、以下のような方針により調査を実施する。

- ① 交通アクセス変更に伴う入山者の行動の変化の予測、および入山口における交通規制への評価とそれに基づくあるべき姿の検討について、以下のような条件の異なる時点での流動実態や利用実態、入山者意識等の比較分析に基づき、説得力のある結果を導き出す。
  - ・ 交通社会実験の実施日と、通常日の比較
  - ・ 平日（鳩待峠第1駐車場の適正利用日）と休日（鳩待峠の混雑日）
- ② 入山者が利用した交通アクセス及び登山ルートを交通計画の“トリップ”と見立ててその実態を明らかにするとともに、交通量予測や交通計画の手法（例えば非集計モデルと呼ばれる数理モデルを構築して評価する手法）を用いて、入山者のトリップ選択構造（交通行動メカニズム）を解明していく。
- ③ 昨年度調査で明らかにされた尾瀬の入山者の流動実態や、大清水における入山者利用の特性（下山口とする比率が大きい等）等を踏まえつつ、交通アクセス変更により、どのような利用タイプがどのように変化するか仮説を設け（例えば鳩待峠往復タイプの一定割合が鳩待峠⇒大清水タイプに転換）、その転換の可能性や数値をアンケート調査等で客観的・科学的に検証していく。

## 2. 実施するアンケート調査・ヒアリング調査の体系

	直接の利用者	入山者全体	尾瀬に関心を持つ層	関係者
群馬県が実施する 交通社会実験	〔調査手法〕 アンケート調査 入山日当日実施	〔調査手法〕 アンケート調査 入山日当日実施	〔調査手法〕 パブリック コメント	〔調査手法〕 ヒアリング調査 後日
大清水～一ノ瀬間の電動バスの運行 〔O-1〕	〔調査対象〕 電動バス乗客 〔調査のねらい・項目〕 ○バス運行による入山ルート変更の実態 ○バス運行の評価（快適性、待ち時間、乗換など） ○バス運行の賛否 ○再乗車希望	〔調査対象〕 全入山者 〔調査のねらい・項目〕 ○現況のルート ○入下山口の評価、ルートの評価 ○これにより入山者のルート（入山口・下山口）＝トリップ選択構造を説明 ○間接的に、バス運行による利用動向の変化を予測	群馬県がホームページ上でパブリックコメントを実施  左記の施策についての意見を収集	〔調査対象〕 大清水・一ノ瀬の施設管理者 バス運行事業者 〔調査のねらい・項目〕 ○バス運行による事業への効果・影響 ○バス運行費用・苦勞 ○バス運行に関する評価
大清水～一ノ瀬間の旧道利用 〔O-2〕	〔調査対象〕 旧道利用者 〔調査のねらい・項目〕 ○旧道利用による入山ルート変更の実態 ○旧道の評価 ○再利用希望 ○バス運行の評価 等	<b>B 調査</b> 〔大清水入下山者〕 調査主体：群馬県		〔調査対象〕 大清水・一ノ瀬の施設管理者 〔調査のねらい・項目〕 ○旧道利用による事業への効果・影響 ○旧道利用に関する評価
大清水～一ノ瀬間の歴史的経緯等の発信展示（説明版設置やミニ写真展の開催等） 〔O-3〕	〔調査対象〕 左記の情報発信展示の観覧者 〔調査のねらい・項目〕 ○情報発信展示の評価（理解の難易、有益だったか、その他感想）			〔調査対象〕 大清水・一ノ瀬の施設管理者 〔調査のねらい・項目〕 ○情報発信展示の評価
鳩待第1駐車場への車両（バス、業務用車両）乗り入れ規制 〔H-1〕	〔調査対象〕 鳩待峠入山者・下山者 〔調査のねらい・項目〕 ○鳩待峠第一駐車場を実際に利用してみたの評価（品格・快適性・利便性等）	〔調査対象〕 全入山者 〔調査のねらい・項目〕 ○国立公園の玄関口としての鳩待峠のイメージ		〔調査対象〕 交通事業者 旅行事業者 鳩待峠施設管理者 〔調査のねらい・項目〕 ○左記の社会交通実験の効果・影響 ○鳩待峠の交通アクセスに関する意見 ○鳩待峠の景観・環境に関する意見
鳩待第2駐車場の利用 〔H-2〕	〔調査対象〕 鳩待峠第二駐車場を実際に利用してみたの評価（快適性・利便性等）			

鳩待峠入山者・下山者を対象とした調査項目をA調査の中に加えて実施  
さらに観察調査・聞き取り調査を実施

**A 調査〔基本は全入山者を対象〕**  
調査主体：環境省

### 3. アンケート調査等の調査対象と調査場所

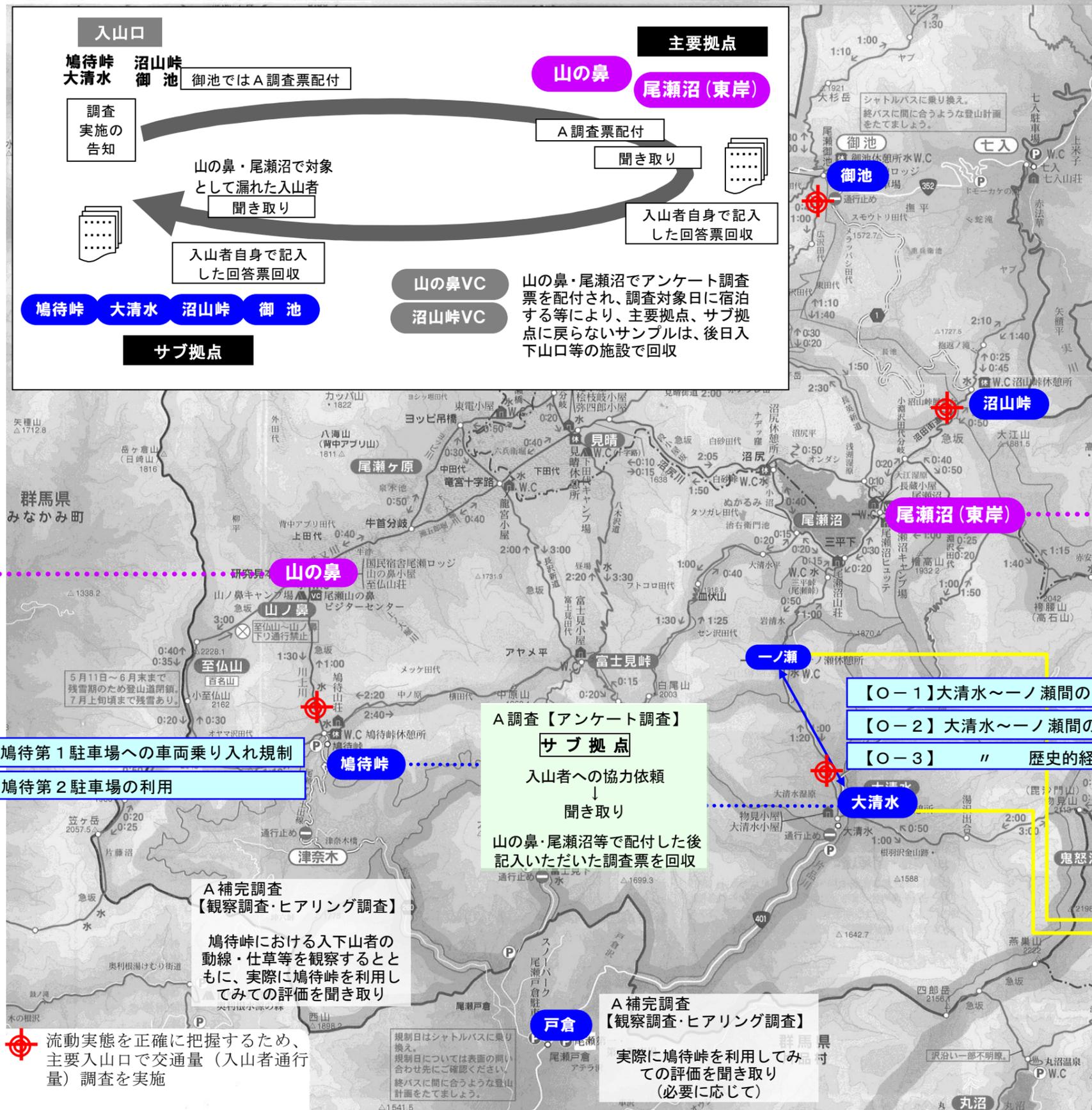
調査項目	調査対象	調査場所	調査日									
			通常日			交通社会実験実施日						
			9/23 金	9/24 土	9/25 日	10/3 月	10/4 火	10/5 水	10/6 木	10/7 金	10/8 土	10/9 日
<b>A調査</b> 【手法:アンケート調査】 入山者の流動実態および入下山口等の意識に関する調査(トリップ選択構造解明調査)	右記の調査対象日の下山者・下山者(グループ代表者)一部設問は、鳩待峠入下山者を対象	・山の鼻(ビジターセンター前) ・尾瀬沼(ビジターセンター前) ・鳩待峠 ・大清水 ・沼山峠 ・御池	○午後から	○全日	○予備日				○全日	○全日	○全日	○全日
<b>A補完調査</b> 【手法:観察調査・ヒアリング調査】 鳩待峠を実際に利用してみたの評価	鳩待峠下山者(サンプリング調査)20人/日	・鳩待峠 ・戸倉駐車場		○予備日				○全日	○全日	○全日	○全日	
<b>B調査</b> 【手法:アンケート調査】 大清水における交通社会実験の評価等調査	大清水入下山者	・大清水 ・一ノ瀬 バス乗客については降車時等	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○
<b>入下山者数カウント調査</b> 流動実態を正確に把握するため、主要入山口で交通量(入山者通行量)調査を実施	主要入下山口の入山者・下山者別	・鳩待峠(~山の鼻) ・大清水 ・沼山峠 ・御池		○全日				○全日	○全日	○全日	○全日	

注1) 日程でバックが赤は、休日

注2) A調査に関する調査員は、それぞれの前日である9/22、10/5に調査場所に入山予定

■アンケート調査等の調査場所とそれぞれの地点での実施事項

主要拠点（山の鼻、尾瀬沼）  
サブ拠点（4つの主要入山口）  
では、アンケート調査の実施とその主旨を説明する説明標識を設置



**A調査【アンケート調査】**  
入山者の流動実態および入下山口等の意識に関する調査（トリップ選択構造説明調査）

**主要拠点**  
入山者への協力依頼  
聞き取り調査  
時間がとれない入山者には、調査票を配付

**A調査【アンケート調査】**  
入山者の流動実態および入下山口等の意識に関する調査（トリップ選択構造説明調査）

**主要拠点**  
入山者への協力依頼  
聞き取り調査  
時間がとれない入山者には、調査票を配付

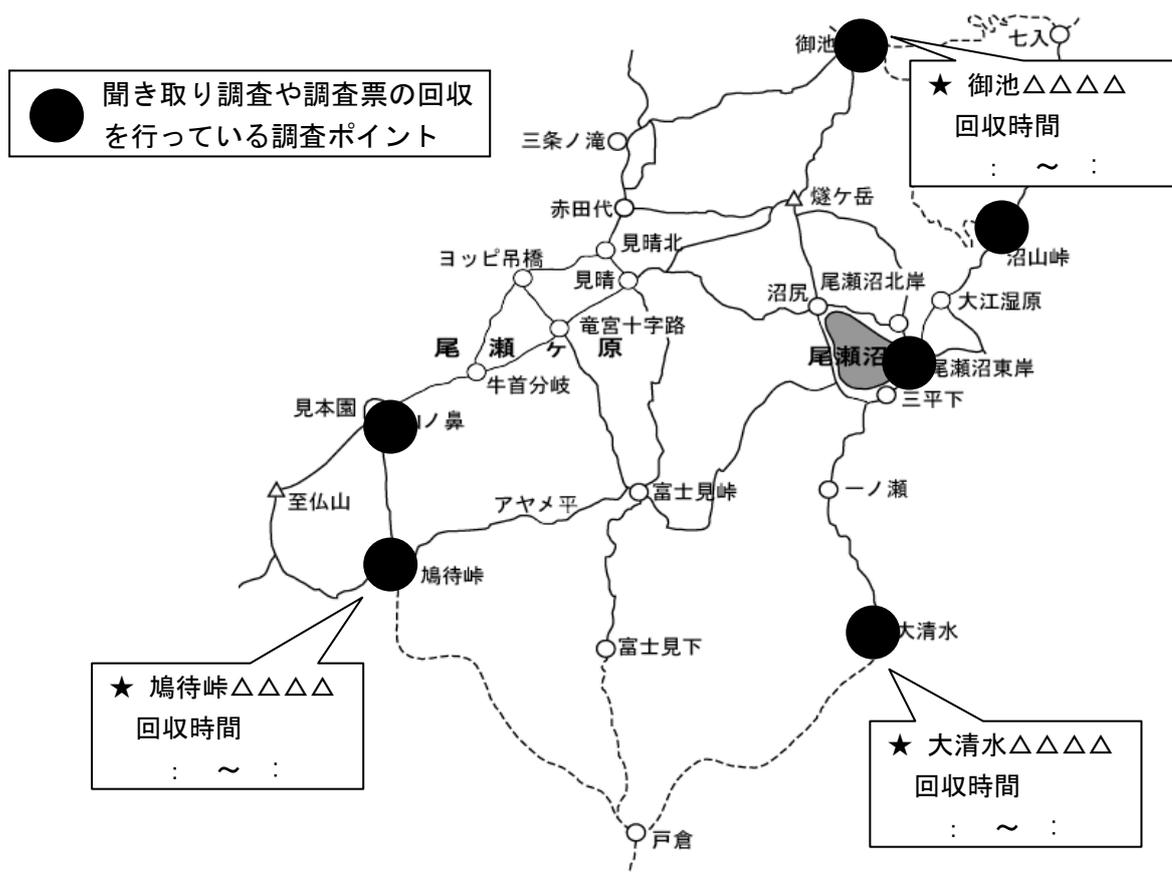
交通社会実験

**B調査【アンケート調査】**  
大清水入下山者（電動バス乗車等）を対象に、大清水における交通社会実験の評価等調査

入山者への調査票配付  
入山者自身で記入  
回収

## 尾瀬の利用に関する調査 ご協力をお願い

- 調査の主旨** 尾瀬国立公園協議会（環境省、福島・新潟・群馬県及び市町村、自然保護団体、地元関係者等）では、尾瀬の多様な魅力を楽しんでいただく方策について検討しております。本アンケート調査は、その基礎資料とするものです。
- 調査の対象** 本日尾瀬に来られている皆様全員を対象にしています。  
グループで来られている方は、代表者1名がご回答ください。
- 回答上のお願い** ○アンケート調査は10～15分程度でご回答できます。入山ルート等については、予定で構いませんのでご回答ください。
- 下図に示すように、「山の鼻地区」「尾瀬沼東岸地区」および「鳩待峠」「大清水」「沼山峠」「御池」（下山口）に調査ポイントを設けています。調査員が調査票にそっておうかがいしますので、口頭でご回答ください。
- なお、アンケート調査票を受け取った後、ご自身でご記入いただいた上で、後ほど上記何れかの調査ポイントでお渡しいただいても構いません。ただし調査ポイントは、概ね16～17時に閉めますので、ご了承ください。
- ご宿泊の方で、9/24 夕方以降ご提出の方は、下図★に示す3つの下山口の回収ボックスに入れてください。その際、スタッフにお声がけください。



- ご注意** 大清水～一ノ瀬間の電気バスに乗られた方や、旧道を歩かれた方は、別のアンケート調査を御願ひしています。本調査は、それとは別の調査ですので、ご協力をお願い致します。

実際の調査票は、回答しやすいように、フォントサイズをあげるか、B4版（拡大）とします。





## II. 尾瀬における登山コースについておうかがいします。

(1) 尾瀬の主な登山コースそれぞれについて、①から③をお答えください

問 コース	同じ入山口を往復			入山口と下山口が異なる縦走			御池を使う 具体的に 御池⇄
	鳩待峠往復	沼山峠往復	大清水往復	鳩待峠⇄大清水	鳩待峠⇄沼山峠	大清水⇄沼山峠	
① 経験がありますか	1.有 2..無						
② コースをご存知ですか	1. 良く知っている 2. 少し知っている 3. 知らない						
③ 楽しいコースと思いますか	1. 楽しい 2. 普通 3. つまらない 4. 不明						

(2) 主要な3つの入山口について、お考えをおうかがいします。

	鳩 待 峠	大 清 水	沼 山 峠
(1) 今後尾瀬に来る機会がある時、入山口や下山口として利用したいですか？ ※ 1つに○	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. わからない	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. わからない	1. 利用したい 2. 利用したくない 3. わからない
(2) もし入山口、または下山口として利用する場合に、魅力と思う点 ※該当する番号全てに○	1. 自宅から近い・交通が便利 2. 勾配がなだらか 3. 入山口から尾瀬原が近い 4. 静かな環境 5. ガイドブック等でよく紹介 6. 何回も行行って安心 7. 初めてなので行きたい 8. その他( )	1. 自宅から近い・交通が便利 2. 勾配がなだらか 3. 入山口から尾瀬沼が近い 4. 静かな環境 5. ガイドブック等でよく紹介 6. 何回も行行って安心 7. 初めてなので行きたい 8. 車で入山口まで行ける 9. その他( )	1. 自宅から近い・交通が便利 2. 勾配がなだらか 3. 入山口から尾瀬沼が近い 4. 静かな環境 5. ガイドブック等でよく紹介 6. 何回も行行って安心 7. 初めてなので行きたい 8. その他( )
(3) もし入山口、または下山口として利用する場合に、支障に思う点 ※該当する番号全てに○	1. 自宅から遠い・交通が不便 2. マイカー規制がある 3. 上り坂、下り坂が急 4. 時間がかかる 5. 混雑している 6. 何回も来て飽きた 7. あまりよく知らない 8. その他( )	1. 自宅から遠い・交通が不便 2. マイカー規制がある 3. 上り坂、下り坂が急 4. 時間がかかる 5. 混雑している 6. 何回も来て飽きた 7. あまりよく知らない 8. その他( )	1. 自宅から遠い・交通が不便 2. マイカー規制がある 3. 上り坂、下り坂が急 4. 時間がかかる 5. 混雑している 6. 何回も来て飽きた 7. あまりよく知らない 8. その他( )

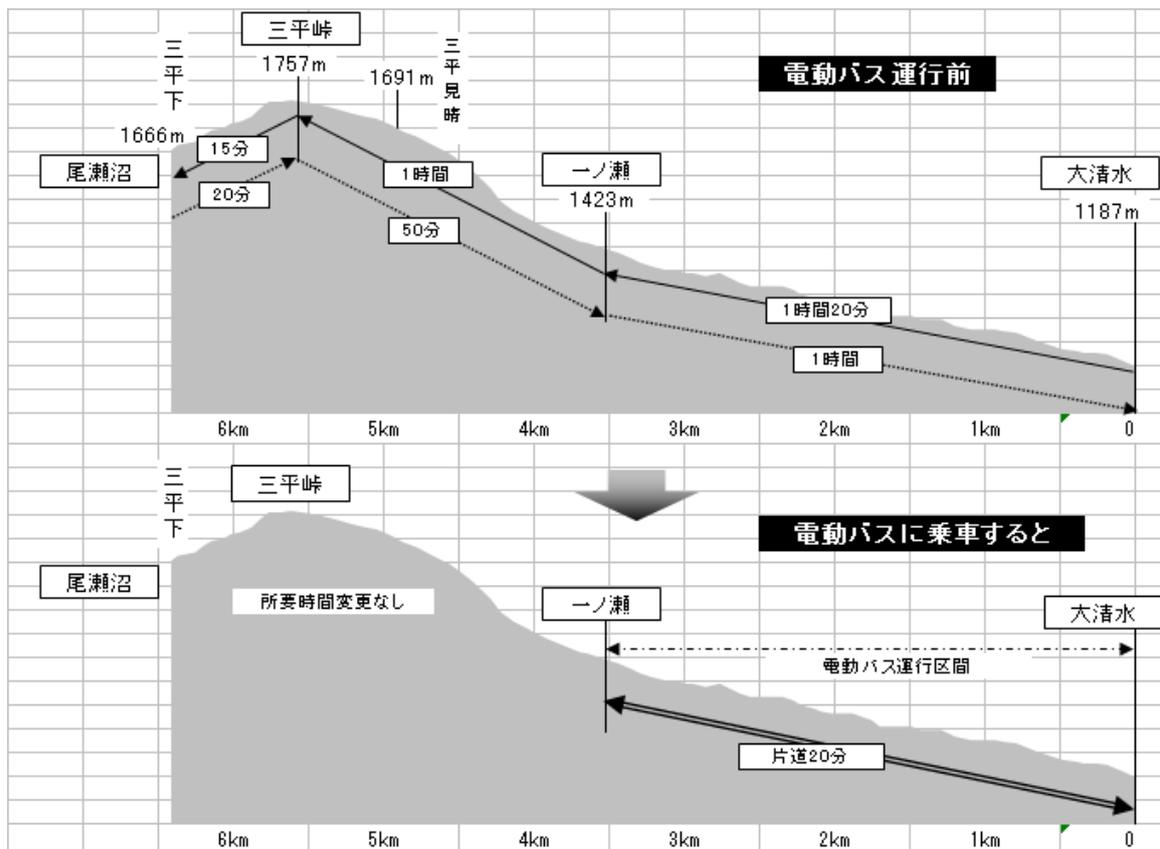
(3) 入山口と下山口が異なる縦走型の登山コースを今後利用したいとお考えですか？ (1つに○)

1. 実施したい                      2. 実施したくない                      3. その他( )

(4) 尾瀬で縦走型の利用をしようとする場合に、どのような点が支障になりますか？ (3つまで○)

1. 時間がかかる                      2. 体力的にきつい  
3. 泊まる魅力がない                      4. 登山コースを知らないので不安  
5. 車で行くため、入山口の駐車場に戻ってきたい                      6. 縦走のための公共交通機関が不便  
7. その他(具体的な理由をご記入下さい) \_\_\_\_\_  
8. 特に支障はない

Ⅲ. 群馬県等では、大清水において以下のような電動バスの社会実験を実施しています。バス運行が行われた場合の大清水の利用に関するご希望をうかがいます。



- (1) また尾瀬に来ることを想定した時、入下山口としての大清水の魅力は変わりますか？（1つに○）
1. 大変利用し易くなり、魅力が増す
  2. 多少利用しやすくなる程度 → 1, 2に○の方だけ(2)へ
  3. 利用のし易さは変わらない
  4. 大清水の静かな環境が損なわれ、魅力が減少する
  5. その他（具体的にご記入下さい \_\_\_\_\_）
- (2) 上記で 1 または 2 に○をつけた方におたずねします。大清水でどのような利用をしたいと思いますか？
1. 大清水から尾瀬沼等の往復利用
  2. 大清水と他の入山口を組み合わせる縦走利用

Ⅳ. 今回の山旅で、鳩待峠を利用した人がご回答ください。その他の人は、ご回答いただく必要はございませんので、次にお進み下さい。

- (1) 鳩待峠のバスやタクシー乗降場は、快適に利用できましたか？（1つに○）
1. 快適
  2. どちらかと言えば快適
  3. どちらかと言えば不快
  4. 不快
- 上記で3か4に○をつけた方は、具体的な理由をご記入ください。
- 
- (2) 鳩待峠の入山口周辺（鳩待山荘や休憩所のある広場）では、混雑感や騒々しさを感じましたか？（1つに○）
1. 静穏
  2. どちらかと言えば静穏
  3. どちらかと言えば騒々しい
  4. 騒々しい
- (3) 鳩待峠は、国立公園に相応しい環境だと思いますか？（1つに○）
1. そう思う
  2. どちらかと言えばそう思う
  3. どちらかと言えばそう思わない
  4. 思わない

## V. 山旅に行かれる時、どのようなメディアから情報を集めますか？（該当する番号全てに○）

1. 市販のガイドブック  
 2. テレビやラジオの番組の紹介  
 3. 山岳・アウトドア雑誌（具体的な雑誌名をご記入下さい \_\_\_\_\_）  
 4. 一般雑誌（具体的な雑誌名をご記入下さい \_\_\_\_\_）  
 5. 旅行会社や鉄道会社のパンフレット・ホームページ  
 6. 地域のパンフレット・ホームページ  
 7. 環境省や尾瀬保護財団のパンフレット・ホームページ  
 8. 他のホームページ  
 9. 現地に電話をして尋ねる  
 10. 知人・友人などから  
 11. その他（具体的にご記入下さい \_\_\_\_\_）

## VI. あなた（およびあなたのパーティ）についておうかがいします。（それぞれ1つに○）

- (1) あなたの性別 1. 男性 2. 女性  
 (2) あなたの年齢 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上  
 (3) あなたの住所 都道府県名をご記入下さい。 \_\_\_\_\_ 都道府県  
 (4) 交通手段 1. マイカー（レンタカーのみ含む） 2. 鉄道+バス（タクシー、レンタカー含む）  
 3. 高速バス 4. ツアーバス 6. その他（具体的にご記入下さい \_\_\_\_\_）  
 (5) パーティ（団体ツアーでずっと一緒に歩かれた方は、その団体）の人数  
 1. 1人 2. 2人 3. 3～5人 4. 6～10人 5. 11～15人 6. 16～20人 6. 20人超  
 (6) パーティの関係（上記(5)で1とご回答の方は、(7)にお進みください）  
 1. 家族 2. 友人 3. 山岳団体 4. ガイド付ツアー  
 5. ツアー（旅行社名をご記入下さい \_\_\_\_\_）  
 6. その他（具体的にご記入下さい \_\_\_\_\_）  
 (7) あなたのパーティのあるく速度 他の人やグループに比較して  
 1. 早い 2. 普通 3. 遅い  
 (8) あなたの尾瀬来訪回数 1. 今回が初めて 2. 2回目 3. 3～5回目 4. 6回以上

## VII. 尾瀬の利用に関して、ご意見・お考えがございましたらご記入下さい。

---



---



---

ご協力誠にありがとうございました。

## 「尾瀬らしい自動車利用社会実験」アンケート調査へのご協力をお願い

現在、尾瀬国立公園協議会（環境省、福島・新潟・群馬県及び市町村、自然保護団体、地元関係者等30名で構成）では、尾瀬の多様な魅力を楽しむ利用の促進を目指し、自動車のアクセスや鳩待峠のあり方を再検討するとともに、入山口の魅力づくり等を推進することとしています。

群馬県では、その一環として、大清水～ノ瀬間に電動バスを試験運行しており、この社会実験の効果把握するため、皆様にアンケート調査をお願いしております。ご協力よろしくお願い致します。

どちらかに○	入山時	下山時	ご回答日時	月	日	時頃
--------	-----	-----	-------	---	---	----

【Q1】あなたのお住まい、性別、年齢をお書きください。

お住まい \_\_\_\_\_ 都・道・府・県 性別 男・女 年齢 \_\_\_\_\_ (例:50代)

【Q2】尾瀬へは今回が何度目のご来訪ですか？

今回を含めて \_\_\_\_\_ 回目 前回の来訪は \_\_\_\_\_ 年前

【Q3】本日、尾瀬で社会実験が行われていることをご存知でしたか？（1つに○）

1. 知っていた 2. 知らなかった

【Q4】前問 Q3 で「1. 知っていた」とお答えの方にはうかがいます。

（1）何で知りましたか？（1つに○）

1. 雑誌 2. 新聞 3. 尾瀬保護財団ホームページ 4. その他のホームページ  
5. その他 ( \_\_\_\_\_ )

（2）社会実験の実施により、入山口や日程を変更しましたか？（該当する番号全てに○）

1. 入山口を変更（⇒下記に具体的にご回答下さい） 2. 日程を変更 3. 変更無し  
a. 鳩待峠から大清水へ b. 大清水から鳩待峠へ c. その他 ( \_\_\_\_\_ から \_\_\_\_\_ へ)

【Q5】社会実験の利用により、今回の登山コースはどのように変わりましたか（1つに○）

1. 長くなった 2. 短くなった 3. 変化無し

（1）「1. 長くなった」とお答えの方にはうかがいます。具体的に該当する番号に○をつけて下さい。

1. 入山口・下山口同一型のつもりが縦走型へ 2. 日帰りのつもりが宿泊へ 3. それ以外(滞在時間延長)

（2）「2. 短くなった」とお答えの方にはうかがいます。具体的に該当する番号に○をつけて下さい。

1. 縦走型のつもりが入山口・下山口同一型へ 2. 宿泊のつもりが日帰りへ 3. それ以外(滞在時間縮小)

【Q6】大清水～ノ瀬の間の交通手段についてうかがいます。

（1）入山時 1. 電動バス乗車 2. 林道(バスルート)を歩行 3. 旧道利用 4. 他の入山口

（2）下山時（予定） 1. 電動バス乗車 2. 林道(バスルート)を歩行 3. 旧道利用 4. 他の入山口

【Q7】 大清水～一ノ瀬の間の電動バスに乗車した方についてうかがいます。

- (1) 乗車して良かったですか？ 1. 満足 2. 不満 3. どちらでもない

理由 \_\_\_\_\_

- (2) 運行頻度についていかがですか？（1つに○） 1. 満足 2. もっと多く 3. その他

- (3) 始発・終発時間について何かご意見はありますか？ \_\_\_\_\_

【Q8】 林道や旧道を歩かれた方にうかがいます。

- (1) 電動バスに乗車しなかった理由をお聞かせ下さい。

理由 \_\_\_\_\_

- (2) 林道（バスルート）や旧道を歩かれて良かったですか？

- 林道（バスルート）を歩かれた方 1. 満足 2. 不満 3. どちらでもない

理由 \_\_\_\_\_

- 旧道を歩かれた方 1. 満足 2. 不満 3. どちらでもない

理由 \_\_\_\_\_

【Q9】 全員にうかがいます。将来、大清水～一ノ瀬の電動バスを利用しますか？（1つに○）

1. 利用したい 2. 利用したくない 3. その他(\_\_\_\_\_)

【Q10】 かつての「観光開発道路」計画等に係る情報発信についてうかがいます。

- (1) かつての「観光開発道路」計画等に係る経緯はご存知でしたか？（1つに○）

1. 知っていた 2. ある程度知っていた 3. 知らなかった

- (2) 展示（情報発信）をみて尾瀬の自然に対する理解が深まりましたか？（1つに○）

1. 深まった 2. やや深まった 3. 変化無し

ご協力誠にありがとうございました。